

December 2023  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

# WINTER

## 終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。  
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。  
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、  
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

## You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.  
When you share the photos on social media, please add #nhkso.  
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

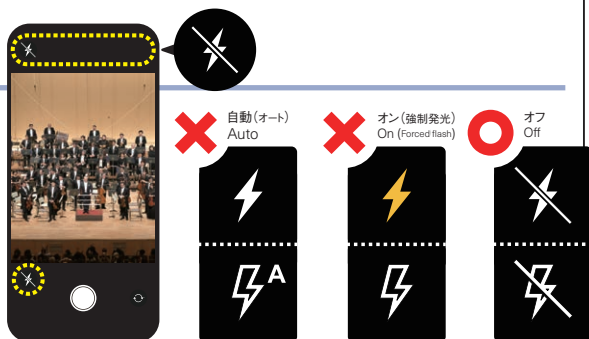


### 「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

### Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは60ページをご覧ください



こちらのQRからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください  
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください  
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください  
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください  
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください  
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください  
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)  
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください  
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします  
Please wear a face mask when shouting "Bravo."

# PHILHARMONY

---

## CONTENTS

DECEMBER 2023

# 12

- 8 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 28 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 34 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 39 [シリーズ] **N響百年史** | 第42回 | 「大改組」の序幕 片山杜秀
- 43 2024年1月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 45 チケットのご案内
- 46 2023–24定期公演プログラム
- 48 特別公演／各地の公演
- 54 特別支援・特別協力・賛助会員
- 58 NHK交響楽団メンバー
- 59 曲目解説執筆者
- 60 みなさまの声をお聞かせください！
- 61 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

### Artist Profiles & Program Notes

- 62 Program A
- 70 Program B
- 73 Program C
- 75 The Subscription Concerts Program 2023–24
- 77 N響関連のお知らせ
- 78 役員等・団友





駆けぬける歓び

T H E

7



FORWARDISM.

いつの時代だって

最上の歓びとは

新しい世界を最初に見ることだ。

FOR MORE  
INFORMATION





世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER



[www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)

 **YAMAHA**  
*Make Waves*

あなたを咲かせる音。

# SX SERIES



S3X | S6X

●ヤマハピアノ・電子ピアノ ホームページ <https://jp.yamaha.com/piano/>  
●ヤマハピアノのお問い合わせは、お客様コミュニケーションセンター  
ピアノご相談窓口 ☎0570-003-808  
営業時間：月曜～金曜10:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

株式会社ヤマハミュージックジャパン



美しい国の、美しい一日がある。



PALACE HOTEL TOKYO

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1 tel 03-3211-5211 (代表) [www.palacehoteltokyo.com](http://www.palacehoteltokyo.com)

  
LEADING  
HOTELS

  
Forbes  
TRAVEL GUIDE



観たいエンタメにサクッと出会える! 知りたい情報にいっぱい出会える!

150万DL  
突破!

# エンタメアプリの 決定版!



チケットぴあと完全連携!



**ダウンロード無料!**  
いま、最高の一本に出会える。



App Store  
からダウンロード

Google Play  
で手に入れよう

ぴあ アプリ  で検索

## 豊富な エンタメ情報!

映画・ステージ・音楽などの  
作品・公演情報が簡単に見つかる!



## チケットぴあと 完全連携が実現!

チケットぴあで扱う全公演が  
「ぴあ」アプリから購入可能に!



## 便利な エンタメノート!

自分だけのノートを作って、  
エンタメ情報を一括管理!



## お得な クーポン&特典!

試写会などの特典やエンタメ施設の  
クーポンが盛りだくさん!



# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援


With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第2000回

NHKホール

12/16 土 6:00pm

12/17 日 2:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ
ソプラノ	ジャクリン・ワグナー*、ヴァレンティーナ・ファルカシュ、 三宅理恵
アルト	オレシア・ペトロヴァ、カトリオーナ・モリソン
テノール	ミヒヤエル・シャーデ
バリトン	ルーク・ストリフ
バス	ダーヴィッド・シュテフェンス
合唱	新国立劇場合唱団(合唱指揮:富平恭平)
児童合唱	NHK東京児童合唱団(児童合唱指揮:金田典子)
コンサートマスター	篠崎史紀

★当初発表の出演者から変更となりました。

第2000回定期公演

マーラー

交響曲 第8番 変ホ長調

「一千人の交響曲」[ファン投票選出曲]

[85']

I 賛歌「来たれ、創造主である聖霊よ」

II 『ファウスト』の終幕の場

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは60ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



## ファビオ・ルイーダ (指揮)



1959年、イタリア・ジェノヴァ出身。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任後初めての2022-23シーズンでは、9月の就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を指揮。その後ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどのドイツ・オーストリアの作品や、フランクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に溢れた指揮は、多くの聴衆の心を掴んだ。2023年8月には首席指揮者としての任期が3年間延長され、2028年3月までとなった。

これまでにチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR (中部ドイツ放送) 交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クレーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

## ジャクリン・ワーグナー (ソプラノ)



欧米の歌劇場で活躍するアメリカのソプラノ歌手。父親がデトロイト交響楽団のホルン奏者の音楽一家に生まれ、マンハッタン音楽学校、ミシガン州オークランド大学で学んだ。フランシスコ・ビニャス国際声楽コンクール、レナータ・テバルディ声楽コンクールなどで入賞。ベルリン・ドイツ・オペラのアンサンブル・メンバーとしてキャリアをスタートさせ、《フィガロの結婚》伯爵夫人、《椿姫》ヴィオレッタなど、多くのレパートリーを演じた。2014年、ネーデルランド・オペラのR. シュトラウス《アラベラ》(ロイ演出)のタイトル・ロールで一躍注目を浴び、以来、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク復活祭音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭など、世界有数の歌劇場や音楽祭に多数出演。近年ではクリスティアン・ティーレマン指揮の《ニュルンベルクのマイスタージンガー》エヴァ役、リッカルド・ムーティ指揮の《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ役など。コンサート出演も数多く、N響とは初共演。マーラーの交響曲でも清冽な声を聴かせてくれるだろう。

## ヴァレンティーナ・ファルカシュ(ソプラノ)



© Daria Andea

はつらつとした明るい声と豊かな声量で魅了する、ルーマニアのソプラノ歌手。ブカレスト国立歌劇場の歌手の両親のもとに生まれ、ブカレスト音楽院でピアノを学ぶ。その後声楽に転向し、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学卒業。2002年からベルリン・コミッシェオーパーの歌手として活躍。2006年ザルツブルク音楽祭の《後宮からの誘拐》ブロンデ役で国際的な名声を高め、以来、各地の歌劇場に出演する。《フィガロの結婚》スザンナ、《愛の妙薬》アディーナ、《リゴレット》ジルダ、《ばらの騎士》ゾフィー、ワイル《マハゴニー市の興亡》ジェニーの各役など、レパートリーは幅広い。

コンサートでは、リッカルド・ムーティ、クリストファー・ホグウッドら、著名な指揮者と数多く共演。N響とは、2019年9月パーヴォ・ヤルヴィ指揮のR. シュトラウス《「カプリッチョ」―「最後の場」》のソリストとして、繊細な表現で心を打つ歌唱を聴かせた。ファビオ・ルイーダとは、最近では2022年にデンマーク国立交響楽団、RAI国立交響楽団それぞれとのマーラー《交響曲第2番「復活」》で共演。今回の《第8番》でも彼女の魅力的な声に期待が高まる。

## 三宅理恵(ソプラノ)



躍進する日本のソプラノ歌手。東京都出身。東京音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。2006年ニューヨークに留学、ドーン・アップショウらに師事した。2009年アメリカ・バード音楽院修士課程修了。2010年藤沢オペラコンクール奨励賞受賞。これまでに小澤征爾音楽塾《カルメン》フラスキータ、日生劇場《フィデリオ》マルツェリーネ、藤倉大《ソラリス》ハリー、東京二期会《ファルスタッフ》ナンネッタ、新国立劇場《パルシファル》花の乙女の各役など、国内の数々のオペラ公演に出演。とりわけ2021年新国立劇場でのストラヴィンスキー《夜鳴きうぐいす》題名役では大きな注目を浴び、AIとの共演が話題になった《Super Angels スーパーエンジェル》エリカ役では新境地を開いた。

コンサートにおいても、2016年8月にはファビオ・ルイーダ指揮サイトウ・キネン・オーケストラによるマーラー《交響曲第2番「復活」》など、多数の公演に出演。N響とは、2017年9月パーヴォ・ヤルヴィ指揮《ドン・ジョヴァンニ》(演奏会形式) ツェルリーナ役で初共演。2022年の「N響ほっとコンサート」では、林光《セロ弾きのゴーシュ》で語りとうたを務めた。マーラーでも美しい高音を輝かせるだろう。二期会会員。

## オレシア・ペトロヴァ(アルト)



©Anatoly Kozlovsky

力強く濃密な歌唱を聴かせるロシアのメゾ・ソプラノ歌手。レニングラード生まれ。サンクトペテルブルク音楽院卒業。2007年第13回チャイコフスキー国際コンクール声楽部門(女声)第2位。2012年第2回パリ・オペラ座コンクール第1位受賞。2007～2016年サンクトペテルブルク音楽院オペラ・バレエ劇場のソリスト。2014年メトロポリタン歌劇場に《アンドレア・シェニエ》マデロン役でデビューした。2016年からミハイロフスキー劇場のソリスト。《仮面舞踏会》ウルリカ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》サントウツァ、《スペードの女王》伯爵夫人などの各役を演じた。これまでベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、マドリッド・レアル劇場、リセウ大劇場などに出演。2018年ポリショイ劇場に《スペードの女王》(トゥガン・ソヒエフ指揮) ポリーナ役でデビュー。ヴェローナ音楽祭には2017、2021、2022、2023年に招かれ、<sup>き</sup>十八番の《アイダ》アムネリスを歌った。2023年には、ロイヤル・オペラ・ハウスにも同役でデビューした。

コンサートにも多数出演。N響とは2022年9月ファビオ・ルイージ指揮のヴェルディ《レクイエム》に続いての共演となる。今回も陰影に富む歌唱で存在感を示してくれるだろう。

## カトリオーナ・モリソン(アルト)



©Andreas Lenz

美しく透明感のある歌声と豊かな表現力を備えた、ドイツ系スコットランド人のメゾ・ソプラノ歌手。エディンバラ生まれ。ヴァイオリンとヴィオラを学び、地元合唱団に所属したのち、声楽に転向した。スコットランド王立音楽院卒業。ベルリン芸術大学でも学んだ。ワイマール・オペラ・スタジオを経て、2016～2018年ヴッパータール歌劇場アンサンブル・メンバーとして、《ホフマン物語》ニクラウス役、《ウェルテル》シャルlotte役などを演じた。2017年BBCカーディフ国際声楽コンクール第1位受賞。以来、エディンバラ国際音楽祭、ケルン歌劇場、ハンブルク国立歌劇場など、欧州の歌劇場や音楽祭に次々と出演。2022年はブラウンシュヴァイク州立劇場で《ラインの黄金》フリッカ役、ヴッパータール歌劇場でモンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》ネローネ役を演じた。

コンサートにおいては、2019年BBCプロムスにデビュー。ファビオ・ルイージとは、2022年9月、デンマーク国立交響楽団のシェーンバルク《グレの歌》で共演した。N響とは初共演。マーラーの交響曲に広がる温かい歌声が楽しみだ。



## ミハエル・シャーデ(テノール)



©Michael Schärde

世界の歌劇場で活躍するカナダのテノール歌手。ジュネーヴ生まれ、ドイツとカナダで教育を受け、ウエスタン・オンタリオ大学卒業。カーティス音楽院で修士号を取得した。1991年のデビュー以来、ウィーン国立歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、カナディアン・オペラ・カンパニー、ヴェルビエ音楽祭、ルツェルン音楽祭、ザルツブルク音楽祭など、著名な歌劇場や音楽祭に多数出演。その歌声は力強さと繊細さを合わせもち、モーツァルトのオペラの主要な役をほぼすべて歌い、ベートーヴェン、R. シュトラウスやドヴォルザークなど、幅広いレパートリーを誇る。

コンサートにおいても、ポルトン、ハーディング、ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、ムーティ、ナガノ、ネゼ・セガン、ラトル、ティーレマン、ティチャーティ、ヤングといった世界の著名指揮者のもと、オーケストラと共演を重ねている。N響とは、2016年9月N響90周年記念公演でのパーヴォ・ヤルヴィ指揮《一千人の交響曲》で初共演、2019年9月ベートーヴェン生誕250周年記念公演での《フィデリオ》(演奏会形式) フロレスタン役でも共演した。2007年、オーストリア政府からカナダ人として初めて「宮廷歌手」の称号を授与された。2017年にはカナダ勲章オフィサーの称号を受勲。2019年からウィーン国立音楽大学教授を務める。

## ルーク・ストリフ(バリトン)



©Luke Strif

アメリカ・コロラド州デンバー出身の新星バリトン歌手。ライス大学シェパード音楽院卒業、2021年同大学で修士号取得。ジュリアード音楽院でも学んだ(2019年卒業)。ジュリアード音楽院の古楽アンサンブル「ジュリアード415」のパーセル《デイドーとエネアス》や、オッフェンバック《天国と地獄》、メトロポリタン歌劇場のリンデマン若手芸術家育成プログラムとの提携による、ヤナーチェク《カーチャ・カバノヴァー》やベッリーニ《夢遊病の女》など多くの作品に出演した。

サンタフェ・オペラでは2021年にブリテン《夏の夜の夢》デメトリアス役を、2023年にはニコ・ミュラー編曲モンテヴェルディ《オルフェオ》タイトルロールを演じた。2021年からヒューストン・グランド・オペラ・スタジオのメンバーとして、《カルメン》《カルメル派修道女の対話》《トスカ》《ロメオとジュリエット》など、数々の作品の舞台に立っている。2024年にはシアトル・オペラの《セビリアの理髪師》フィガロ役、アトランタ・オペラの《夏の夜の夢》デメトリアス役での出演が予定されるなど、いま注目の若手である。N響とは初共演。

## ダーヴィッド・シュテフェンス (バス)



DAVID STEFFENS

ドイツ・バイエルン州バートライヘンハル出身のバス歌手。2011年ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院卒業。ディートリヒ・フィッシャー・ディースカウのマスタークラスにも参加した。2011年、ザルツブルク州立劇場の《フィガロの結婚》バルトロ役でデビュー。その後、シュトゥットガルト歌劇場専属歌手として、《魔笛》ザラストロ、《ローエングリン》ハインリヒ王、《カルメン》エスカミーリヨなどの各役を演じた。ドレスデン国立歌劇場、マドリッド・レアル劇場、ウィーン・フォルクスオーパーなどにも出演。2018年ザルツブルク音楽祭に《サロメ》でデビュー、2021年には《ドン・ジョヴァンニ》(カステルッチ演出)のマゼット役で出演した。近年では、ベルリン国立歌劇場での《ばらの騎士》オックス男爵、シュトゥットガルト国立劇場での《ワルキューレ》フンディング、リール歌劇場での《トリスタンとイゾルデ》国王マルケなどを演じている。コンサートでは、サイモン・ラトル、ズービン・メータ、テオドル・クルレンツィスらと共演。ファビオ・ルイーゼとは、2022年9月デンマーク国立交響楽団のシェーンベルク《グレの歌》で共演した。のびやかな低音を響かせ、次世代のバス歌手として期待される。N響とは初共演。

## 新国立劇場合唱団 (合唱)

1997年10月に開場した新国立劇場の専属合唱団として、1998年4月より活動を開始した。団員は高水準の歌唱力と優れた演技力をもち、高いアンサンブル能力と豊かな声量は、共演する出演者、指揮者、演出家、国内外のメディアからも高い評価を得ている。新国立劇場以外にも国内の主要オーケストラとの共演のほか、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団など海外のオーケストラとの共演も多く、活躍の場を広げている。N響とは2004年新国立劇場公演《神々のたそがれ》で初共演。2019年にはバーヴォ・ヤルヴィ&N響ベートーヴェン生誕250周年記念公演《フィデリオ》(演奏会形式)に参加。定期公演でもたびたび共演し、近年では、2019年11月のモーツァルト《ミサ曲ハ短調》、2020年1月のマラー《交響曲第2番「復活」》などに出演した。ファビオ・ルイーゼとは、2022年9月にヴェルディ《レクイエム》で初共演。その迫力に満ちた感動的な合唱は記憶に新しい。

## NHK東京児童合唱団 (児童合唱)

1952年3月、「少年少女に豊かな心を」という願いから、NHKの教育番組と子ども番組の充実を目的として創立されたNHK東京児童合唱団(旧称・東京放送児童合唱団)は、NHKの放送出演はもとより、海外の合唱団との交流や国内の主要オーケストラと共演を重ねている。また、邦人作曲家への合唱作品の委嘱など、多くの作品を国内外に紹介。2022年には創立70周年を迎えた。

「コダーイ・ゾルタン生誕100年記念国際合唱コンクール」青少年部門第1位・総合部門グランプリなど国内外の多数のコンクールに入賞。2009年N響とともに「天皇・皇后両陛下ご成婚50

周年ご即位20周年記念コンサート」に出演した。新国立劇場などオペラへの出演も多数。2023年東京二期会《トゥーランドット》に参加。N響とは2010年から共演を重ね、最近では、「NHK音楽祭2018」でのオルフ《カルミナ・ブラーナ》、2018年12月にチャイコフスキー《バレエ音楽「くるみ割り人形」》で共演した。

[柴辻純子／音楽評論家] (ソリスト、合唱プロフィール)

## Program Note | 広瀬大介

それまでに作曲した交響曲の数々で、あらゆる伝統をじわじわと解体したグスタフ・マーラー (1860～1911)。次に続く交響曲は、従来の型にはまったくあてはまらない作品でなくてはならなかった。《第8番》は、ベートーヴェン《交響曲第9番》が何もかも破格であったのと同様、既存のいかなるジャンルにも当てはまらない、記念碑的ではありつつも異形の作品として世に生まれ出た。栄えある定期公演2000回記念を言祝ぐこの作品で、N響も次代を拓く新たな歩みを決然と踏み出すことだろう。

マーラー

## 交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」

1897年以来、ウィーン宮廷歌劇場の音楽監督という激務に追われていたマーラーは、その作曲活動を夏の避暑地でこなすのが常だった。《交響曲第8番》は1906年、オーストリア・クラゲンフルト近郊のヴェルター湖岸、マイヤーニヒの作曲小屋で作られている(管弦楽化は翌年)。初演は、興行師エミール・グートマンによる、「ミュンヘン博覧会1910」のメインイベントとして企画された。会場の博覧会新祝祭音楽堂には、当時としては最先端の建築様式を象徴するコンクリートとガラスが用いられている。オーケストラ170名、合唱850名、聴衆を収容できるような場所を、既存の歌劇場や演奏会場には求めるべくもない。初演には多くの音楽家や文化人が集った。聴衆の歓呼は30分続き、音楽評論家パウ・シュテファンの言葉を借りれば「マーラーは人生を極め、名声の頂点に立ったように見える」というほどの成功を収めた。

もともとマーラーは本作を従来の4楽章形式によって構想していた。スケッチからは、第1楽章のあとに「スケルツォ」「アダージョ・カリタス」「賛歌：エロスの誕生」という3つの楽章が続く予定であったことがわかる。「カリタス」とは神から施される「慈みの愛」。第4楽章においてもう一度賛歌を登場させ、慈愛とは対極にある「エロス」、人間の性愛を置くことで、2つの「愛」の形を対置させようとしたことが窺える。

この構想からは、画家グスタフ・クリムトが1901～1902年に描き、《第9》の第4楽章〈歡喜の歌〉の絵画化に際し、シラーの詩とベートーヴェンの音楽を抱き合う男女の姿



という性愛の範疇<sup>はんちゆう</sup>で解釈し直した《ベートーヴェン・フリーズ》が想起されよう。結局マーラーは、カリタスとエロスの愛を表現すべき歌詞を、シラーと並び立つ巨匠、ゲーテによる『ファウスト』の最終場面から採った。この場面を交響曲の各楽章を擬したともとれる3部構成(アダージョ、スケルツォ、フィナーレ)にすることで、3つの楽章の要素を包摂する長大な第2部が誕生する。

第1部は、通常の交響曲の冒頭楽章に用いられるソナタ形式として解釈することが可能であり、パロディ的要素は背後に退いている。中世のメインツ大司教、ラバヌス・マウルス(776?~856)によるラテン語の賛歌《来たれ、創造主である聖霊よ》(主にペンテコステ〔聖霊降臨祭〕の際に歌われる)が冒頭楽章のテキストとして用いられた。冒頭、オルガンによる変ホ長調の主和音が荘重に鳴り響くと、歌詞は1小節ごとに目まぐるしく変わる拍子に乗せて歌われる(第1主題)。第2主題は、第1ソプラノ独唱によって歌われる変ニ長調の「天上の御恵みで満たしたまえ」。展開部は、オーケストラだけによる間奏曲風の楽想が続くことでそれと示し、第1主題の最初と最後を結合して作られたホルンの旋律が現れる(その後の曲を形作る重要な動機)。大規模な二重フーガが展開され、第1主題が完全な形で確保されることによって再現部となる。対位法的な技法は、結尾に向かってそのクライマックスを迎える。

この第1部・展開部で用いられたモチーフが、続く第2部において2つの部を音楽的に結びつける。冒頭のポーコ・アダージョでは、自然、そしてそれを創造した神の偉大さが独唱バリトン〈法悦の教父〉、独唱バス〈冥想<sup>めいそう</sup>の教父〉によって歌われる。オーケストラの間奏を経てスケルツァンドに移行すると、児童合唱が天使たちの歌を歌い、テノール〈マリア崇拝の博士〉が新しいホ長調の旋律によって聖母を讃え、変奏曲風の楽想が続く。アダージッシモでは独唱女声3人によるカノンとなり、第2ソプラノ独唱〈贖罪<sup>しよくざい</sup>の女〉(ファウストの永遠の恋人・グレートヒェンを指す)が聖母マリアへの懺悔を歌う。マリアによる救いの場面では、これまでの主題がさまざまな形で再登場し、世界がより豊かに満たされるさまを描く。リストが《ファウスト交響曲》で導入した「永遠に女性的なるもの」の歌詞が最後に用いられ、カリタスとエロスを融合したこの巨大な作品は、マーラーが長年追い求めてきた新しいオーケストラ作品の在り方を提示する集大成となった。

作曲年代	1906年夏、1907年夏
初演	1910年9月12日、ミュンヘン、カイム管弦楽団、ウィーン楽友協会合唱団、リーデル協会合唱団、ミュンヘン中央歌唱学校児童、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート5(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ4、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、Esクラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット4、コントラファゴット1、ホルン8、トランペット4、トロンボーン4、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、サスベンデッド・シンバル、タムタム、トライアングル、チューブラー・ベル、グロッケンシュピール、チェレスタ、ピアノ、ハーモニウム、オルガン、ハープ4、マンドリン、弦楽、バンダ:トランペット4、トロンボーン3、独唱:ソプラノ・ソロ3、アルト・ソロ2、テノール・ソロ1、バリトン・ソロ1、バス・ソロ1、合唱(児童合唱、2組の混声合唱)

# マーラー 交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」歌詞対訳

## Mahler Symphony No.8 E-flat major *Symphonie der Tausend*

訳◎岩下久美子 | Translation: Kumiko Iwashita

16 & 17. DEC. 2023

( )内は歌詞として使われていない

### I. Teil

#### Hymnus: Veni, creator spiritus

Veni, creator spiritus,  
Mentes tuorum visita;  
Imple superna gratia,  
quae tu creasti pectora.

Qui paraclitus diceris,  
Donum Dei altissimi,  
Fons vivus, ignis, caritas,  
et spiritalis unctio.

Veni, creator.

Infirma nostri corporis  
virtute firmans perpeti;  
Accende lumen sensibus,  
infunde amorem cordibus.

Accende lumen sensibus,  
infunde amorem cordibus.

hostem repellas longius,  
pacemque dones protinus;  
ductore sic te praevio  
vitemus omne pessimum.

### 第1部

#### 賛歌「来たれ、 創造主である聖霊よ」

来たれ、創造主である聖霊よ。  
汝に從う者たちの心を訪れたまえ。  
天上の御恵みで満たしたまえ、  
汝が創られた者たちの胸の内を。

慰め主たる汝、  
いと高き神の贈物、  
生ける泉、火、慈悲、  
香油で癒やしたもう聖霊。

来たれ、創造主よ。

我らの肉体の弱さを  
不滅の力で強め、  
我らの知恵に明かりを灯し、  
愛で我らの心を満たしたまえ。

我らの知恵に明かりを灯し、  
愛で我らの心を満たしたまえ。

より遠くへ敵を追いやり、  
尽くさず平和を与えたまえ。  
かくして汝に先導され  
我らは、いと悪しきことすべてを避く。

Tu septiformis munere,  
digitus paternae dexterae.

(tu rite promissum Patris,  
sermone ditans guttura.)

Per te sciamus da Patrem,  
noscamus (atque) filium,  
(Te utriusque) Spiritum  
credamus omni tempore.

Accende lumen sensibus,  
infunde amorem cordibus.  
Veni, creator spiritus.  
Qui paraclitus diceris,  
Donum Dei altissimi.

Da gaudiorum praemia,  
da gratiarum munera;  
dissolve litis vincula,  
adstringe pacis foedera.

pacemque dones protinus,  
ductore sic te praevio  
vitemus omne pessimum.

Gloria Patri Domino,  
Deo sit gloria et Filio,  
Natoque, qui a mortuis  
surrexit, ac Paraclito  
in saeculorum saecula.

汝は七重ななえの贈物、  
父の右手の指。

(汝は、まさしく父なる神の約束、  
人に言葉を与えて雄弁となす。)

汝を通して父を我らに示したまえ、  
(そして)御子みこを認識させたまえ、  
(父と子に発する汝)聖霊を  
常に信じさせたまえ。

我らの知恵に明かりを灯し、  
愛で我らの心を満たしたまえ。  
来たれ、創造主である聖霊よ。  
慰め主たる汝、  
いと高き神の贈物。

喜びを恵み与えたまえ、  
寵愛ちようあいを贈り施したまえ。  
争いの鎖まじを解き、  
平和きずなの絆を結び合わせたまえ。

尽くさず平和を与えたまえ。  
かくして汝に先導され  
我らは、いと悪しきことすべてを避く。

父なる主に栄光あれ、  
神に、そして御子に栄光あれ、  
死してのち  
蘇よみがえり御子に、聖霊に栄光あれ、  
世々に至るまで。

## II. Teil Schlußzene aus *Faust*

Bergschluchten, Wald, Fels, Einöde.  
Heilige Anachoreten gebirgauf verteilt,  
gelagert zwischen Klüften.

### Chor und Echo

Waldung, sie schwankt heran,  
Felsen, sie lasten dran,  
Wurzeln, sie klammern an,  
Stamm dicht an Stamm hinan.  
Woge nach Woge spritzt,  
Höhle, die tiefste, schützt.  
Löwen, sie schleichen stumm-  
freundlich um uns herum,  
Ehren geweihten Ort,  
Heiligen Liebeshort.

### Pater ecstaticus [auf und abschwebend]

Ewiger Wonnebrand,  
Glühendes Lieband,  
Siedender Schmerz der Brust,  
Schäumende Gotteslust.  
Pfeile, durchdringt mich,  
Lanzen, bezwinget mich,  
Keulen, zerschmettert mich,  
Blitze, durchwettert mich;  
Daß ja das Nichtige  
Alles verflüchtige,  
Glänze der Dauerstern,  
Ewiger Liebe Kern!

## 第2部 『ファウスト』の 終幕の場

さんきやう  
山峡、森、岩場、荒地。  
聖なる隠者たちが、山の斜面に散らばるように、  
谷あいの場所を占めている。

### 合唱とこだま

森は、こちらへとなびき、  
岩は地にのしかかり、  
根は、からみ合い、  
幹は身を寄せ合う。  
重なる大波は、しぶきを上げ、  
洞穴は、この上なく奥深く、隠れ家となる。  
獅子たちは、忍び足で、沈黙のうちに  
親しみを込め、私たちの周りを歩み、  
清められた場所を、  
清らかな愛の隠れ家を崇める。

### 法悦の教父 [上に下に漂いながら]

永遠の歓喜の炎、  
焼けつく愛の絆、  
胸にたぎる苦悩、  
沸き立つ天上の喜び。  
矢よ、私を貫け、  
槍よ、私を倒せ、  
こん棒よ、私を打ち砕け、  
稲妻よ、私を打ち抜け。  
空疎なもの、  
そのすべてが消え去るために、  
不滅の星が、  
永遠の愛の心髄が輝くために!



## Pater profundus

[tiefe Region]

Wie Felsenabgrund mir zu Füßen  
Auf tiefem Abgrund lastend ruht,  
Wie tausend Bäche strahlend fließen  
Zum grausen Sturz des Schaums der Flut,  
Wie strack, mit eig'nem kräft'gen Triebe,  
Der Stamm sich in die Lüfte trägt:  
So ist es die allmäh't'ge Liebe,  
Die alles bildet, alles hegt.

Ist um mich her ein wildes Brausen,  
Als wogte Wald und Felsengrund!  
Und doch stürzt, liebevoll im Sausen,  
Die Wasserfülle sich zum Schlund,  
Berufen gleich das Tal zu wässern;  
Der Blitz, der flammend niederschlug,  
Die Atmosphäre zu verbessern,  
Die Gift und Dunst im Busen trug:

Sind Liebesboten, sie verkünden,  
Was ewig schaffend uns umwallt.

Mein Inn'eres mög' es auch entzünden,  
Wo sich der Geist, verworren, kalt,  
Verquält in stumpfer Sinne Schranken,  
Scharf angeschlossen'nem Kettenschmerz.  
O Gott! beschwichtige die Gedanken,  
Erleuchte mein bedürftig Herz!

## Chor der Engel

[Schwebend in der höheren Atmosphäre,  
Faustens Unsterbliches tragend]

Gerettet ist das edle Glied  
Der Geisterwelt vom Bösen:  
Wer immer strebend sich bemüht,  
Den können wir erlösen;  
Und hat an ihm die Liebe gar  
Von oben teilgenommen,  
Begegnet ihm die sel'ge Schar  
Mit herzlichem Willkommen.

## 瞑想の教父

[低い所で]

私の足下の絶壁が  
深い谷の上で微動だにしないがごとく、  
幾千もの小川が光り輝きながら流れ  
泡立つ奔流の恐ろしい滝となるがごとく、  
まっすぐに、おのれの内から発する強い力によって、  
幹が空中にそびえるがごとく、  
そのごとく全能の愛はある、  
すべてを形づくり、すべてを育む全能の愛は。

私の周りで荒々しくごうごうと鳴り響く水音がする、  
あたかも森や絶壁が揺れ動くかのようだ!  
だが、鳴り響きながらも愛に満ちて、  
豊かな水は谷間へと流れ落ちる、  
今にも谷を潤す使命を帯びているのだ。  
閃き<sup>ひらめ</sup>つつ落ちた稲妻は、  
空気を清めるためだった、  
毒と臭気をはらんだ空気を。

これらは愛の使者たちだ、彼らは告げる、  
不断に創造しつつ私たちの周りを  
浮動するものごとを。

それが、私の内にも火をつけてほしい、  
私の内では、精神は、混乱し、冷たく、  
五感の鈍さが<sup>かき</sup>枷となり苦しんでいる、  
間隙<sup>かんげき</sup>なく繋<sup>つな</sup>がれた鎖のごとく不断の苦しみだ。  
おお神よ! これらの思考を静めて下さい、  
私の貧しい心を明るく照らして下さい!

## 天使の合唱

[ファウストの不死の魂を運びつつ、  
より高い空中を漂いながら]

霊界の気高い一人が  
悪魔から救われた。  
常に努力し骨折る者を、  
私たちは救済する。  
その者に、さらに  
天上の愛が注がれるなら、  
昇天した者たちの一群に  
心からの<sup>よろこ</sup>喜びをもって迎えられる。

**Chor seliger Knaben**

[um die höchsten Gipfel kreisend]

Hände verschlinget euch  
 Freudig zum Ringverein,  
 Regt euch und singet  
 Heil'ge Gefühle drein!  
 Göttlich belehret,  
 Dürft ihr vertrauen;  
 Den ihr verehret,  
 Werdet ihr schauen.

**Chor der jüngeren Engel**

Jene Rosen, aus den Händen  
 Liebend-heiliger Bűßerinnen,

Halfen uns den Sieg gewinnen  
 Und das hohe Werk vollenden,  
 Diesen Seelenschatz erbeuten.  
 Böse wichen, als wir streuten,  
 Teufel flohen, als wir trafen.  
 Statt gewohnter Höllenstrafen  
 Fühlten Liebesqual die Geister;  
 Selbst der alte Satans-Meister  
 War von spitzer Pein durchdrungen.  
 Jauchzet auf! es ist gelungen.

**Die vollendeteren Engel**

Uns bleibt ein Erdenrest  
 Zu tragen peinlich,  
 Und wär' er von Asbest  
 Er ist nicht reinlich.  
 Wenn starke Geisteskraft  
 Die Elemente  
 An sich herangerafft,  
 Kein Engel trennte  
 Geeinte Zwienatur

**昇天した少年たちの合唱**

[最も高い頂きを廻りながら]

手と手を取り合い  
 楽しく仲間たちと結び合え、  
 躍動せよ、そして歌え、  
 聖なる思いを込めて！  
 神に導かれ、  
 あなた方は確信することを許される、  
 あなた方が崇める方を、  
 やがて見ることになるのを。

**完成の途上にある天使たちの合唱**

あれらのバラ、愛に満ちた  
 清らかな贖罪しよくざいの女の手から与えられたあれらの  
 バラが、  
 私たちの力となって勝利を得させ、  
 偉大な仕事を完成させ、  
 このような魂の宝を得させた。  
 私たちが散開して追ると、悪人どもは退いた、  
 私たちに遭遇すると、悪魔どもは逃げ出した。  
 つね日ごろの地獄の罰に代わり  
 霊たちは愛の苦悩を感じた。  
 年老いた悪魔しゆまの首魁でさえ  
 刺すような激痛に貫かれていた。  
 歓声を上げよ！ 成し遂げられたのだ。

**より完成された天使たち**

地上どんしの残滓を担うのは  
 私たちにとって、つらいこと。  
 たとえ、それが石綿で出来ていても  
 清浄ではない。  
 強い精神の力が  
 諸元素を  
 自らに引き寄せ束ねるなら、  
 どんな天使も分かつことは出来ないだろう、  
 結び合わされ二つで一つとなった

Der innigen beiden;  
Die ew'ge Liebe nur  
Vermag's zu scheiden.

親密な両者を。  
永遠の愛だけが  
それを分かťことが出来るのだ。

## Die jüngeren Engel

Ich spür' soeben,  
Nebelnd um Felsenhöh',  
Ein Geisterleben,  
Regend sich in der Näh'.  
(Die Wölkchen werden klar.)  
Seliger Knaben  
Sch' ich bewegte Schar,  
Los von der Erde Druck,  
Im Kreis gesellt,  
Die sich erlaben  
Am neuen Lenz und Schmuck  
Der obern Welt.  
Sei er zum Anbeginn,  
Steigendem Vollgewinn,  
Diesen gesellt!

## 完成の途上にある天使たち

私は今まさに感じる、  
高い岩山の周りを包む霧となって、  
霊が活動するのを、  
近くで活気づくのを。  
(いくつもの小さな雲が見えてくる。)  
昇天した少年たちの  
活発な一群が見える、  
地上の抑圧から放たれ、  
互いに輪になり、  
生氣を取り戻す、  
天上界の新たな  
春の飾りに。  
この者が、  
完璧なる勝利に至れるよう、  
まずは少年たちの仲間に加えられるように!

## Chor seliger Knaben

Freudig empfangen wir  
Diesen im Puppenstand;  
Also erlangen wir  
Englisches Unterpfund.  
Löset die Flocken los,  
Die ihn umgeben!  
Schon ist er schön und groß  
Von heiligem Leben.

## 昇天した少年たちの合唱

僕たちは喜んで迎える、  
さなぎの段階にあるこの人を。  
このようにして僕たちは手に入れる、  
天使からの証しを。  
この人を包む繭を  
解きほぐせ!  
すでにこの人は美しく、そして大きい、  
清らかな生によって。

**Doctor Marianus**

[in der höchsten, reinlichsten Zelle]

Hier ist die Aussicht frei,  
 Der Geist erhoben.  
 Dort ziehen Frauen vorbei,  
 Schwebend nach oben.  
 Die Herrliche mitteninn  
 Im Sternenkranze,  
 Die Himmelskönigin,  
 Ich seh's am Glanze!  
 [entzückt]  
 Höchste Herrscherin der Welt!  
 Lasse mich im blauen,  
 Ausgespannten Himmelszelt  
 Dein Geheimnis schauen!  
 Bill'ge, was des Mannes Brust  
 Ernst und zart bewegt  
 Und mit heil'ger Liebeslust  
 Dir entgegenträgt!

Unbezwänglich unser Mut,  
 Wenn du hehr gebietest;  
 Plötzlich mildert sich die Glut,  
 Wenn du uns befriedest.

**Doctor Marianus und Chor**

Jungfrau, rein im schönsten Sinn,  
 Mutter, Ehren würdig,  
 Uns erwählte Königin,  
 Göttern ebenbürtig.  
 [Mater gloriosa schwebt einher.]

**マリア崇拝の博士**

[最も高く、最も清い僧房で]

ここでは見晴らしが遮られることなく、  
 精神が高められる。  
 そこを女性たちが過ぎゆき、  
 上方へと漂い昇る。  
 その中央に位置する  
 星の冠をいただく栄光に満ちた女性、  
 あれは天の女王だ、  
 私には、その輝きでそれと分かる！  
 [うっとりとして]  
 世界の至高の統治者である女王よ！  
 天上に張られた  
 青い天幕のうちに、  
 あなたの神秘を見せて下さい！  
 受け入れて下さい、男の胸が  
 誠実に、そして優しく動かされ、  
 清らかな愛の喜びをもって  
 あなたのもとへと運ぶものを！

私たちの勇気は揺るぎない、  
 あなたが厳かにお命じになるなら。  
 突然その熱が和らぐのは、  
 あなたが私たちの心をお静めになる時だ。

**マリア崇拝の博士と合唱**

清らかな上にも清らかな処女よ、  
 崇拜すべき御母よ、  
 私たちのために選ばれた女王よ、  
 神々にも等しい方よ。  
 [栄光の聖母が漂いながらやって来る。]



## Chor

Dir, der Unberührbaren,  
Ist es nicht benommen,  
Daß die leicht Verführbaren  
Traulich zu dir kommen.

In die Schwachheit hingerafft,  
Sind sie schwer zu retten;  
Wer zerreißt aus eig'ner Kraft  
Der Gelüste Ketten?  
Wie entgleitet schnell der Fuß  
Schiefer, glattem Boden?  
(Wen betört nicht Blick und Gruß,  
Schmeichelhafter Odem?)

Chor der Büsserinnen und  
una Poenitentium

Du schwebst zu Höhen  
Der ewigen Reiche,  
Vernimmt das Flehen,  
Du Gnadenreiche!  
Du Ohnegleiche!

Magna Peccatrix  
[St. Lucae VII, 36]

Bei der Liebe, die den Füßen  
Deines gottverklärten Sohnes  
Tränen ließ zum Balsam fließen,  
Trotz des Pharisäer-Hohnes;  
Beim Gefäße, das so reichlich  
Tropfte Wohlgeruch hernieder;  
Bei den Locken, die so weichlich  
Trockneten die heil'gen Glieder—

## 合唱

あなた、触れることの出来ない方、  
だが、あなたのもとには、  
容易に誘惑に陥る者たちが  
心安らかに身を寄せることが出来る。

弱さの中に<sup>とら</sup>捉え込まれた者を、  
救うのは容易ではない。  
誰が自身の力で  
欲望の鎖を断ち切れよう？  
どれほど容易に足を踏み外すものか、  
斜めになって滑りやすい床の上では？  
(誰が、<sup>まなざし</sup>眼差しや<sup>かきまぜ</sup>挨拶、  
耳に快い言葉に惑わされずにいよう?)

## 贖罪の女たちの合唱と一人の贖罪の女

あなたは漂いながら  
永遠の王国の高みへと昇られる、  
嘆願をお聞き下さい、  
あなた、恵みに満ちた方よ！  
あなた、比類ない方よ！

罪深い女  
[ルカ伝第7章36節]

神に変容した  
あなたの息子の足に、  
パリサイ人の罵り<sup>ののし</sup>にもかかわらず、  
涙を香油に代えて注がせた愛にかけて。  
あんなにも豊かに  
良い香りを滴り落とした器にかけて。  
あんなにも優しく  
聖なる手足を拭った<sup>ぬぐ</sup>巻き毛にかけて——

**Mulier Samaritana**

[St. Joh. IV]

Bei dem Bronn, zu dem schon weiland  
 Abram ließ die Herde führen;  
 Bei dem Eimer, der dem Heiland  
 Kühll die Lippe durft' berühren;  
 Bei der reinen, reichen Quelle,  
 Die nun dorther sich ergießet,  
 überflüssig, ewig helle,  
 Rings durch alle Welten fließt—

**Maria Aegyptiaca**

[Acta Sanctorum]

Bei dem hochgeweihten Orte,  
 Wo den Herrn man niederließ,  
 Bei dem Arm, der von der Pforte  
 Warnend mich zurücke stieß;  
 Bei der vierzigjäh'gen Buße,  
 Der ich treu in Wüsten blieb;  
 Bei dem sel'gen Scheidegruße,  
 Den im Sand ich niederschrieb—

**Zu drei**

Die du großen Sünderinnen  
 Deine Nähe nicht verweigerst,  
 Und ein büßendes Gewinnen  
 In die Ewigkeiten steigerst,  
 Gönn' auch dieser guten Seele,  
 Die sich einmal nur vergessen,  
 Die nicht ahnte, daß sie fehle,  
 Dein Verzeihen angemessen!

**サマリア人の女**

[ヨハネ伝第4章]

かつてアブラハムが  
 家畜を連れて行かせた泉にかけて。  
 救い主の唇に触れ  
 冷やすことを許された水桶<sup>みずおけ</sup>にかけて。  
 澄んだ豊かな泉、  
 今そこから水が流れ出で、  
 水量豊かに、永遠に澄みきって、  
 あらゆる世界を廻り流れる泉にかけて——

**エジプトのマリア**

[使徒行録]

聖別された貴い場所、  
 主に腰を下ろさせたその場所にかけて。  
 戒めを与えて、門の前から  
 私を突き返した腕にかけて。  
 40年の間、私が  
 砂漠で休むことなく続けた懺悔<sup>ざんげ</sup>にかけて。  
 砂の中に私が書き記した  
 歓喜あふれる告別の挨拶にかけて——

**3人で**

大きな罪を犯した女たちが  
 お傍<sup>そば</sup>にあることを拒まない方よ、  
 懺悔で得られたものを  
 永遠へと高めて下さる方よ、  
 この善良な魂にも、お与え下さい、  
 一度我を忘れただけで、  
 自分の過ちに少しも気付かなかったこの魂に、  
 その身になつたお赦しを!

**Una Poenitentium**

[sonst Gretchen genannt, sich anschmiegend]

Neige, neige,  
 Du Ohnegleiche,  
 Du Strahlenreiche,  
 Dein Antlitz gnäig meinem Glück!  
 Der früh Geliebte,  
 Nicht mehr Getrübte,  
 Er kommt zurück.

**贖罪の女**[かつてグレートヘンと呼ばれた女、  
聖母にすがりついて]

こちらへ、お向け下さい、  
 あなた、比類ない方よ、  
 あなた、光に満ちた方よ、  
 私の幸せのために恵みに満ちて、あなたのお顔を！  
 かつて愛した人、  
 もはや心の曇りのない人、  
 その人が戻ってきます。

**Selige Knabe**

[in Kreisbewegung sich nähernd]

Er überwächst uns schon  
 An mächt'gen Gliedern,  
 Wird treuer Pflege Lohn  
 Reichlich erwidern.  
 Wir wurden früh entfernt  
 Von Lebechören;  
 Doch dieser hat gelernt,  
 Er wird uns lehren.

**昇天した少年たち**

[輪を描きつつ近づきながら]

この人は、すでに僕たちより  
 力強い手足を持つほどに成長している、  
 忠実な世話に  
 充分、報いてくれるだろう。  
 僕たちは幼い頃に  
 生者の一団から遠ざけられた。  
 だが、この人は学ぶ機会を持った、  
 この人が私たちに教えてくれるだろう。

**Una Poenitentium**

[Gretchen]

Vom edlen Geisterchor umgeben,  
 Wird sich der Neue kaum gewahr,  
 Er ahnet kaum das frische Leben,  
 So gleicht er schon der heil'gen Schar.  
 Sieh, wie er jedem Erdenbande  
 Der alten Hülle sich entrafft,  
 Und aus ätherischem Gewande  
 Hervortritt erste Jugendkraft!  
 Vergönne mir, ihn zu belehren!  
 Noch blendet ihn der neue Tag.

**贖罪の女**

[グレートヘン]

気高い霊たちに囲まれ、  
 この新参の人は、おそらく自分を自分と分ならず、  
 新たな生を予感してもいない、  
 でも、すでに聖なる一群に等しくなっている。  
 ご覧下さい、この人が地上の束縛という  
 かつての殻を振り払う様を、  
 そして天空の衣をまとったその内から  
 最初の若々しい力が現れ出る様を！  
 この人を導くことをお許し下さい！  
 まだ、この人には新たな日の光がまぶしいのです。

---

**Mater gloriosa und Chor**

Komm! hebe dich zu höhern Sphären!  
Wenn er dich ahnet, folgt er nach.

---

**Doctor Marianus**  
[auf dem Angesicht anbetend] **und Chor**

Blicket auf zum Retterblick,  
Alle reuig Zarten,  
Euch zu sel'gem Glück  
Dankend mizuarten!  
Werde jeder bess're Sinn  
Dir zum Dienst erbötig;  
Jungfrau, Mutter, Königin,  
Göttin, bleibe gnädig!

---

**Chorus mysticus**

Alles Vergängliche  
Ist nur ein Gleichnis;  
Das Unzulängliche,  
Hier wird's Ereignis;  
Das Unbeschreibliche,  
Hier ist's getan;  
Das Ewig-Weibliche  
Zieht uns hinan!

---

**栄光の聖母と合唱**

お出でなさい! より高い天空へお昇りなさい!  
あなたを感じたら、その人もつき従っていきます。

---

**マリア崇拜の博士**  
[頭を垂れ崇拜して]と合唱

救い主の眼差しを見上げよ、  
改悛かいしゆんしたすべての力弱い者たちよ、  
この上ない幸せに向かって  
感謝しつつ変容するために!  
より良い心を持つ者すべてが  
あなたに仕えることを申し出ますように!  
処女よ、御母よ、女王よ、  
女神よ、いつも恵み深くあって下さい!

---

**神秘の合唱**

すべての過ぎゆくものは  
比喩ひよにすぎない。  
到達しえないことが、  
ここでは成就される。  
言葉で表しえないことが、  
ここでは成し遂げられた。  
永遠に女性的なるものが  
私たちを引き上げる!

A

2023, DECEMBER

[第2000回]



“世界のすべて”を内包する巨大交響曲

# グスタフ・マーラー

Gustav Mahler (1860–1911)

マーラーは大人気指揮者にして、当時の音楽シーンを<sup>けんいん</sup>牽引する作曲家だった。19世紀末から20世紀はじめ、ウィーンを中心に活躍し、「交響曲はひとつの世界のようなものである。そこにはすべてが含まれていなければならないのだ」と、その理念を語ったという。“世界のすべて”を表現するため、彼の交響曲は長大になり、楽器編成も巨大化する。その頂点ともいえる《一千人の交響曲》が奏でられるとき、あなたの目の前にはどんな世界が広がるだろうか。



渋谷から鳴動する大宇宙を震わす響き  
指揮者ルイーダと、マーラーが……重なる！  
イラストレーション：©IKE

## 第2000回定期公演

1927年にはじまったN響の定期公演。ひとつひとつ公演を重ねて1986年には第1000回を迎え、ルイーダの師であるサヴァリッシュの指揮でメンデルスゾーン《エリア》が演奏された。そして今回、第2000回の定期公演の演目は、ファン投票で選ばれた《一千人の交響曲》。記念すべき節目でNHKホールに響くマーラーの超大作は、N響の新たな一歩を後押ししてくれることだろう。



PROGRAM

B

第1999回

サントリーホール

12/6 水 7:00pm

12/7 木 7:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ | プロフィールはp.9

ピアノ アリス・紗良・オット

コンサートマスター 郷古 廉

レーガース生誕150年

ハイドン

交響曲 第100番 ト長調 Hob.I-100

「軍隊」[24']

I アダージョー・アレグロ

II アレグレット

III メヌエット: モデラート・トリオ

IV 終曲: プレスト

リスト

ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 [19']

I アレグロ・マエストーソ

II クワジ・アダージョ

III アレグレット・ヴィヴァーチェ

IV アレグロ・マルツィア・レ・アニマート

—— 休憩(20分) ——

レーガー

モーツァルトの主題による

変奏曲とフーガ 作品132 [35']

主題: アンダンテ・グラチオーソ

第1変奏: リステツォ・テンポ

第2変奏: ポーコ・アジタート

第3変奏: コン・モート

第4変奏: ヴィヴァーチェ

第5変奏: クワジ・プレスト

第6変奏: ソステヌート

第7変奏: アンダンテ・グラチオーソ

第8変奏: モルト・ソステヌート

フーガ: アレグレット・グラチオーソ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは60ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## アリス・紗良・オット(ピアノ)



© Pascal Abrahamides

19歳でドイツの伝統あるクラシック音楽レーベルと専属契約を交わし、20歳でリスト《超絶技巧練習曲》のアルバムで鮮烈なデビューを果たして以来、アリス・紗良・オットはクラシック音楽をつねに先進的で創造的な視点から捉え直し、革新的なプレゼンテーションを続けている。2021年の10作目のアルバム『Echoes of Life』は、ショパンの前奏曲と現代作品との組み合わせが大きな話題となり、建築家ハカン・デミレルと

の協働による映像作品を用いた新しい形のリサイタルも展開し、ロンドン、パリ、ミュンヘン、東京など各地で成功させた。

これまでにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ロンドン交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ウィーン交響楽団などと共演を重ねている。この秋にはカネラキス指揮オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団と共演するベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第1番》のアルバムをリリース。

N響との初共演は2012年。今回は5年ぶり5度目の登場となる。ファビオ・ルイーゼとのリストの《ピアノ協奏曲第1番》は、大胆で爽快、かつ繊細な響きの綾が織り成されることだろう。

[飯田有抄／クラシック音楽ファシリテーター]

## Program Notes | 池上健一郎

作曲家のメモリアルイヤーというのは、それだけでめでたい気分になったり、時の流れに思いを馳せたりと、音楽ファンにとって何かと嬉しいものである。しかも、それが普段なかなか触れる機会のない作品と出会うきっかけになれば、なおさらだ。

本公演のメインを飾るのは、今年で生誕150年を迎えるマックス・レーガー(1873～1916)。今でこそ「知る人ぞ知る」存在だが、バッハから始まる輝かしいドイツ音楽史の継承者として、生前は高く評価されていた作曲家である。《モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ》には、伝統の中に革新の種を探った彼の美学が体现されている。「150歳」を祝うにはうってつけの一曲だ。

### ハイドン

## 交響曲 第100番 ト長調 Hob.I-100「軍隊」

ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)は、長年仕えていたニコラウス・エステルハージ侯爵の死を機に、1791から1792年、1794から1795年と2度にわたってイギリスに滞在し、

あわせて12曲(《第93番》～《第104番》)の交響曲を披露した。本作は、1794年のロンドンでの演奏会シーズンに合わせて作曲された、「ロンドン交響曲集」の中でも当時もっとも大きな人気を誇った作品である。その理由は、「軍隊」の愛称の由来となった第2楽章の「トルコ行進曲」。折しもイギリスはフランスとの戦争状態に突入したばかりで、ロンドンにも戦時下特有のそこはかかない緊張が漂っていた。だからこそ、戦いのイメージを呼び起こす粗野な行進曲が聴衆を虜にしたのであった。

ちなみに、第2楽章はもともと、ハイドンがナポリ王フェルディナンド4世のために1786年に作曲した、《リラ・オルガニッツァータのための協奏曲第3番》(Hob. VIIIh-3)の旋律を再利用したものである。

**第1楽章**(アダージョ・アレグロ) 穏やかに始まる導入部に続いて、フルートとオーボエが愛らしい主題を奏でる。随所で現れる木管楽器の軽やかなソロが、総奏の盛り上がりとの対比もあって、なおさら耳に心地よい。

**第2楽章**(アレグレット) 民謡のような平和な旋律が、途中でトライアングル、シンバル、大太鼓が打ち鳴らされる荒々しいトルコ行進曲に一変する。トランペットが吹き鳴らすファンファーレに続く最後のオーケストラの爆発は、激しい戦闘の場面を思わせる。

**第3楽章**(メヌエット：モデラート―トリオ) 鋭いターン音型が散りばめられた、キレのあるメヌエット。中間部(トリオ)は穏やかな曲調だが、途中で思いがけないオーケストラの強奏が待っている。

**第4楽章**(終曲：プレスト) 舞曲風の主題が何度も回帰するロンド。推進力のある音楽だが、ときおり裏をかくように停止するのがいかにもハイドンらしい。最後は「トルコ風」の楽器も加わって、にぎやかな大団円を迎える。

作曲年代	1793年または1794年
初演	1794年3月31日、ロンドン、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽

## リスト

### ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調

最初の着想は、フランツ・リスト(1811～1886)が若きピアニストとしてパリのサロンを席巻していた1832年にまでさかのぼる。しかし、本格的な完成を見たのは1849年のこと。しかしその後も披露される機会のないまま、1853年にさらなる改訂が加えられ、1855年2月17日ようやく初演される運びとなった。その間、リストはヴァルトゥオーソとしての演奏活動に終止符を打ち、ワイマールの宮廷楽団を率いる立場へと、そして自身が作り出した新たなジャンルである交響詩の作り手へと転身していた。華麗なピアニズムをシンフォ

ニックな響きが包み込む本作には、リストのこうした経歴がはっきりと映し出されている。緩徐楽章とスケルツォを中間に置く4楽章構成を取ってはいるものの、全楽章が休みなく演奏されるうえに、同じ旋律が楽章をまたいで何度も現れるため、実質的には単一楽章のようでもある。

**第1楽章**(アレグロ・マエストーソ) ユニゾンで奏でられる冒頭の雄々しい旋律は、楽章をまたいで繰り返し現れる協奏曲全体の「モットー」。ダイナミックなカデンツァから情感たっぷりの甘い旋律まで、ピアノが幅広く活躍する。

**第2楽章**(クワジ・アダージョ) ピアノが清冽な旋律をたっぷりと歌わせる。緊張感が漂う中盤のレチタティーヴォを越えると、この協奏曲全体のもうひとつの軸となる柔らかな旋律が、フルートとクラリネットによって歌い継がれてゆく。

**第3楽章**(アレグレット・ヴィヴァーチェ) トライアングルの響きとともに曲調は一転し、軽快でおどけたスケルツォ風の音楽へ。後半に入ると「モットー」が力強く帰帰し、さらに第2楽章後半の旋律も顔を覗かせつつ音楽は大きく盛り上がり、そのまま第4楽章へ突入する。

**第4楽章**(アレグロ・マルツィアーレ・アニマーテ) 行進曲風のリズムで始まる、これまでの総決算のようなフィナーレ。ピアノも技巧的なパッセージを存分に披露し、最後は「モットー」が変容した旋律とともに勢いよく閉じられる。

作曲年代	1835～1856年(1853年、1856年改訂)
初演	1855年2月17日、ワイマール、エクトル・ベルリオズ指揮、作曲家自身の独奏
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、弦楽、ピアノソロ

## レーガー

### モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132

マックス・レーガーは、南ドイツの小都市ヴァイデンで育ち、ミュンヘンやライプツィヒなどで活躍した作曲家。本作は、モーツァルトの《ピアノ・ソナタ第11番 イ長調》(K. 331/1783年)第1楽章の主題にもとづく大規模なオーケストラ変奏曲で、レーガーの管弦楽曲の中ではもっとも広く知られたものである。モーツァルトのソナタが6つの変奏を持つものに対して、レーガーは8つの変奏を連ね、長大なフーガで締めくくる構成を取っている。

1911年以降、レーガーはドイツの名門マイニンゲン宮廷楽団の指揮者として多忙な日々を送っていたが、1914年2月に過労で体調を崩し、しばらくの間療養を余儀なくされる。その後、再び創作意欲を取り戻した彼が同年5月に着手したのが本作である。本格的な復帰作とも言えるこの曲について、本人は「考えられうる限りもっとも平明で、混じり気のない音楽」と述べている。しかし、体系的な変奏の組み立て方や揺るぎないフーガの書法には、彼が範としたJ. S. バッハ、ベートーヴェン、ブラームスといった先人

たちの精神が刻み込まれており、実際にはドイツ音楽史をまるごと凝縮したかのような密度とスケールを誇っている。

モーツァルトの旋律をオーケストレーションした**主題**(アンダンテ・グラチオーソ)から始まって、**第1変奏**(リステツ・テンポ)は、もとの旋律に軽やかな装飾が重ねられる。**第2変奏**(ポーコ・アジタート)に入ると転調し、叙情性に富んだ響きへ。**第3変奏**(コン・モート)で、旋律の輪郭は残しつつも短調の響きに転じると、ホルンの鋭いリズムが印象的な**第4変奏**(ヴィヴァーチェ)で本来の主題から大きく離れてスケルツォの性格を帯びる。木管楽器が動き回る**第5変奏**(クワジ・プレスト)も引き続きスケルツォ風で、音楽は一時的に活気を見せるも、やがて力を失うように静かに閉じられる。

テンポの加速が収まる**第6変奏**(ソステヌート)では、主題の輪郭を感じさせつつ、木管楽器の音色が優雅に絡み合う。**第7変奏**(アンダンテ・グラチオーソ)に至って主題がはっきりと回歸し、それまでの変奏に一区切りが与えられる。

自由で拡大された**第8変奏**(モルト・ソステヌート)は、聴く者を酔わせる芳醇な後期ロマン主義的音響世界。そこから一転、軽妙な主題が提示されると、長大なフーガ(アレグレット・グラチオーソ)の始まりだ。最後は、冒頭の主題の輝かしい回歸とともに、音楽は最高潮を迎える。

作曲年代	1914年
初演	1915年1月8日、ヴィースバーデン、マックス・レーガー指揮
楽器編成	フルート3、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、ハープ1、弦楽



レーガーは若い頃から、バッハやベートーヴェン、ブラームスを熱烈に崇拝し、自分の師に宛てた手紙では、「彼らの様式を発展させる」ことに努めると、決意表明までしている。そんなレーガーの周囲からの評価はというと、変奏やフーガの並外れた才能から「第2のバッハ」というあだ名がつくほど！自分の高い志と、他者からの評価とが一致した幸せな事例ともいえるだろうか。自他ともに認めたドイツ音楽の継承者、レーガーの変奏曲が本日の一曲。

Max Reger (1873-1916)

# マックス・レーガー

ドイツ音楽の  
伝統を受け継ぐ男

**B**  
2023  
DECEMBER  
[第1999回]

## 変奏曲

変奏とは、基本の旋律に装飾音をつけたり、調を変えたり、拍子やリズムを変えたりしていくこと。そのときに肝要なのは、技術とセンス。腕もクリエイティビティも両方問われてしまう、意外と難しい技法が「変奏」だ。人気店で基本のプレーン味が美味しいのはもちろん、甘い味、ほろ苦い味、スパイシーな味——さまざまなバリエーションで心が弾むのと同じかも!?



2mもあったという巨漢レーガーを誘うのは  
モーツァルトの幻影  
イラストレーション: ©IKE

PROGRAM

C

第1998回

NHKホール

12/1 金 7:30pm

12/2 土 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ | プロフィールは p. 9

コンサートマスター 川崎洋介♦

◆川崎洋介：ニューヨーク出身。6歳より父・川崎雅夫からヴァイオリンの手ほどきをうけ、ジュリアード音楽院ではD. ティレイ、H. カンらに師事。日本センチュリー交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど日米のオーケストラでコンサートマスターを歴任し、現在はカナダのオタワ・ナショナル・アーツ・センター管弦楽団のコンサートマスターを務めている。アフィニス音楽祭音楽監督。

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

1日(金)6:45pm～/2日(土)1:15pm～

ヴァイオリン：村尾隆人、松田拓之 ヴィオラ：村上淳一郎、村松 龍 チェロ：渡邊方子、藤村俊介  
ブラームス / 弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18—第2楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

## フンパーディング

歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲

[8']

## ベルリオーズ

幻想交響曲 作品14 [50']

- I 夢と情熱
- II 舞踏会
- III 野の風景
- IV 断頭台への行進
- V ワルプルギスの夜の夢

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは60ページをご覧ください



こちらのQRから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksor.jp/enquete.html>

クラシック音楽の世界においては、時として「絶対音楽」の方が「標題音楽」よりも格上のように見なされることがある。そちらの方が音楽として「純粹だ」という判断なのだろう。しかし一方で、音楽が「音楽外」のものを自らのなかに取り込もうとすると、人間の想像力を越えた不思議な次元に到達することがある。純粹でないからこそその飛躍。本日演奏される2曲はまさに、いずれも「物語」を軸にすることによって、作曲家の奔放な想像力がリリースされた格好の例といっただろう。

## フンパーディンク

### 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲

かつて『本当は恐ろしいグリム童話』という書籍が流行したが、恐ろしいかどうかはともかくとしても、たしかにこの童話集は単なる子ども向きの物語ではない。第1巻が1812年、第2巻が1815年の刊行という時期からもわかるように、これはナポレオン戦争によるドイツ・ナショナリズムの高揚を背景にした書物なのである。まだ統一されておらず、文化的にも水準が低いとされていたこの国の基層を掘り起こし、ドイツ民族がひとつになる、という大きな目論見が、グリム兄弟による民話の発掘を支えていたというわけだ。

エンゲルベルト・フンパーディンク(1854～1921)が17歳のとき、ドイツは悲願の統一を遂げた。彼がワーグナーに招かれてパイロイトに赴き、《パルシファル》の上演を補佐することになったのも、音楽の好みだけではなく、ドイツという国家の尊厳を重んじるという共通点が2人にはあったからだろう。

もともと、フンパーディンクはワーグナー流の巨大オペラにあまり関心を示さなかった。その代わりに彼は《7匹の子ヤギ》《王様の子供たち》《眠り姫》《坊やのクリスマスの夢》といったメルヘン・オペラを次々に手がけて、ワーグナーとは逆の地点からドイツという国の輪郭を描くことになったのだ。

《ヘンゼルとグレーテル》は1892年の作品。誰もが知るかわいらしい物語が、しかし重厚かつ濃厚な管弦楽法で綴られる、小規模とも大規模とも言いがたい、不思議な作品である。〈前奏曲〉は、ホルンのアンサンブルではじまり、オペラのなかで用いられる主題のいくつかが順に扱われてゆく。ただし、魔女に代表される不穏な旋律はほぼ省かれ、最終的な救済にむけての明るい雰囲気が全編を満たしている。

作曲年代	1892年
初演	[オペラ]1893年12月23日、ワイマール宮廷歌劇場にて、リヒャルト・シュトラウス指揮による
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、 チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、シンバル、弦楽

## ベルリオーズ

### 幻想交響曲 作品14

よく知られているように、エクトール・ベルリオーズ(1803~1869)が1830年に作曲した《幻想交響曲》は、女優ハリエツト・スミツソンへの<sup>かな</sup>叶わぬ恋を描いた作品である。まだ無名の作曲家が人気女優に相手にされなかったのは当然なのだが、なにより面白いのは、しかし失恋から生まれたこの曲によって、今度はスミツソンの気持ちが変化していったことだ。

1832年、ローマ留学から帰ってきたベルリオーズは、自分の《幻想》の再演演奏会に、人を介してスミツソンを招待した。彼の『回想録』を読むと、この演奏会でのスミツソンの心情が、「あときの哀れな青年……でも、おそらく私を忘れてにちがいない……」と、なぜか一人称で(!?)語られている。そして圧倒的な交響曲のサウンドのなかで彼女は「これはわたしのことなのだ……あの人はずっと愛してくれていたのだ!」と感激し、結局、2人は結婚することになる。

すなわちベルリオーズは、その妄想力によって、音楽史上類をみない斬新な交響曲を完成させるとともに、やはりその妄想力によって、初志貫徹、見事にこの女優と結婚にいたったわけだ。以下、楽曲の推移について述べる。

曲は、ある若い芸術家が恋の苦しみから阿片自殺を<sup>アヘン</sup>図ろうとしたものの、薬の量が少なかったために奇怪な幻想を見る、というストーリーを持つ(ただし、初演時には4~5楽章のみが「夢」で1~3楽章は現実という設定だったのに対して、1855年の改訂時には、全楽章とも「夢」の産物となっている)。

**第1楽章〈夢と情熱〉**は、ゆるやかな序奏の後に、フルートとヴァイオリンによって、恋人を象徴する固定楽想が現れる。この旋律は全楽章を通して何度も顔を出し、物語の進行を示すことになる。**第2楽章〈舞踏会〉**は、にぎやかな舞踏会の中で、彼がふと恋人の姿を見いだすという設定。流麗なワルツを交響曲に使うという発想は、当時としてはユニークだ。**第3楽章〈野の風景〉**は、夏の夕べに主人公が物思いにふける様子。イングリッシュホルンとオーボエの旋律、そしてティンパニの雷鳴が聴きどころだろう。**第4楽章〈断頭台への行進〉**は、苦しみのあまり恋人を殺してしまった芸術家が、死刑場へと向かう異様な行進曲。楽章最後にはトゥッティの大音響によって、ギロチンの刃が落下したことが示される。そして**第5楽章〈ワルプルギスの夜の夢〉**は、全曲の白眉といえる壮

絶な楽章。死後の世界で生け贄<sup>いにえ</sup>になる主人公の姿が描かれるが、弦楽器のコレレーニョ、管楽器のポルタメントなど、特殊奏法的な効果を縦横無尽に駆使しながら、妖<sup>あや</sup>しげな雰囲気<sup>あや</sup>を音響化していく手法は圧巻。やがて弔いの鐘が鳴り、低音楽器にグレゴリオ聖歌の〈怒りの日〉の旋律が現れると、豪快な Rondò へ突入。最後には〈怒りの日〉を交えた対位法書法へと発展し、狂乱の内に幕を閉じる。

作曲年代	1830年
初演	1830年12月5日、パリ音楽院にて、フランソワ・アブネック指揮による
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2(E♭クラリネット1)、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ2(最大4人で演奏)、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、ハープ2、弦楽、バンダ:オーボエ1、鐘



182 DEC. 2023



早期教育の多い音楽の世界にあって、ベルリオズのスタートは少しゆっくだ。少年の頃に習ったのはフルートとギター。ピアノは習ったことがない。裕福な医者の子に生まれ、両親の意向でしぶしぶ医学生となり、パリへ出てきてはじめてのオペラに大感激したのは17歳の時。少年時代から独り作曲をしていたともいうが、ここからパリ音楽院の門をたたき、実際に大作曲家となるのだから人生わからない。人生を変えていくのはいつだって情熱だ。

思い立ったら、まっしぐら

# エクトル・ベルリオズ

Hector Berlioz  
(1803–1869)

C  
2023  
DECEMBER  
【第1998回】  
👁️👁️

スマリソンへの愛に燃むベルリオズ  
イラストレーション: ©IKE

## 言葉がわからなくても大丈夫？

パリで音楽を学ぶベルリオズは、ある日、イギリスからきたシェクスピア劇団による『ハムレット』の公演を観劇した。当時、英語はほとんどわからなかったベルリオズなのだが、その舞台に出演していた女優ハリエット・スマリソンにすっかり魅せられてしまう。言葉がわからなくても、交響曲がひとつ出来上がってしまうくらいに想いを募らせるベルリオズの情熱は……、やはり常人離れしている。

# N響百年史

## 第四十二回 ―「大改組」の序幕

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。隙間風吹く新交響楽団との活動をしばし棚上げし、再渡欧する近衛秀麿。ついにベルリン・フィルに客演指揮者として招聘され、得意満面で帰国しますが――

近衛秀麿、ベルリン・フィルに客演す！

1933(昭和8)年6月19日、近衛秀麿は新交響楽団の第127回定期公演(当時は予約演奏会)を指揮した。楽季の区切りになる、締めコンサートだ。プログラムはベートーヴェンの《交響曲第5番》、アレクサンドル・モジレフスキーを独奏者に迎えての同じ作曲家の《ヴァイオリン協奏曲》、そしてレーガーの《祖国への序曲》。得意の曲目で固めている。評判も上々だった。そして夏。近衛はしばし新交響楽団と別れ、8月17日、横浜から米国経由で欧州に向かう。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に招かれたのだ。1924(大正13)年に初めてその楽団を指揮してから、9年ぶりのことである。しかも9年前はいわば近衛の指揮リサイタルにベルリン・フィルを雇った恰好だったのだが、今度は定期演奏会への客演だ。ついにそのときが来た。近衛の胸は高鳴る。新交響楽団の秋からのシーズンは当分のあいだ、他の指揮者に任せるしかあるまい。ベルリン・フィルを振れば、後のスケジュールも入ってくるのではないか。近衛は帰国日程を曖昧にしたままで旅立った。

ベルリンでの記念すべき公演の日は10月3日。近衛は指揮者としてだけでなく、編曲家としても勝負した。シューベルトのあの長大な《弦楽五重奏曲ハ長調》をオーケストレーションした《大交響曲》と、雅楽の代表曲を西洋管弦楽に直した《越天楽》を並べる。ロマン派の室内楽と日本の古代の音楽を近衛自らのアレンジによって！単に指揮者として登場するのとはかなり違う。作曲家の自作自演とは異なるけれども、再現芸術家というよりは創造的音楽家としての猛烈な自己主張がなされたのだ。むろん、そこには賛否両論があったが、たとえば、会場を訪

れたひとりであったピアニストのウィルヘルム・ケンプは、シューベルトのアレンジを激賞したという。山田耕筰の弟子でもあり、元は作曲を志していたはずの近衛が、作曲よりも編曲に勝負をかける音楽家に変身していったことには、すでにいくらか触れている。ベルリン・フィルとの檜舞台で近衛が得たかったものには「編曲家としての勝利」がかなりの比重で含まれていたのであり、結果、近衛は十分な達成感を得て、その後長く「編曲道」に邁進してゆく。

そんな編曲物のあとはリヒャルト・シュトラウスの《ドン・ファン》だ。近衛の機敏さと色彩感覚が聴衆を魅了した。作曲家も来場していて、演奏が終わると、万雷の拍手の中、わざわざステージに上がって、指揮者を抱きしめた。近衛自身のレポートによれば、そのときシュトラウスは「正確だ。素敵素敵。私の考えどおりだ」と指



1933年10月3日、公演には作曲家のR. シュトラウスも来場した(左から、R. シュトラウス、作曲家のレズニチェク、シュトラウスの息子フランツ、近衛秀麿)

揮者に語りかけたという。

近衛はそのあと、ドイツ各地やポーランドのオーケストラを指揮して回った。1934(昭和9)年1月に再びベルリン・フィルを振る機会にも恵まれた。帰国は延び延びになった。豪華客船、浅間丸に乗って横浜に戻ってきたのは2月23日である。半年以上、日本を空けていたわけだ。

近衛が新交響楽団の指揮台にひさびさに登場したのは、3月14日の第137回定期公演である。ベルリン・フィルとの演奏成果の報告会のような選曲であった。前年10月のプログラムをなぞったうえに、完成させたばかりの近衛編曲版によるムソルグスキー《展覧会の絵》から最後の2曲(〈ババ・ヤガーの小屋〉、〈キエフの大きな門〉)を加えた。近衛なりにロシア的な重厚な鳴りを追究して、ラヴェルと一線を画そうとしている。指揮者と編曲家であることが一体となった、たとえばレオポルド・ストコフスキーのような音楽家のありようへと、ますます近づいていこうとする近衛であった。

## 齋藤秀雄、寝返る

はて、近衛のいなかった長い間、新交響楽団はどうしていたのだろうか？ 近衛のサポート役の“第2の指揮者”、ニコライ・シフェルブラットを中心に、定期公演や臨時公演、それにラジオ向けの演奏に明け暮れていた。定期公演では、シフェルブラットがタンスマンの《交響曲第2番》を作曲家の来日に合わせて初演し、そのほか、ローベルト・ボラックがコルンゴルトの《組曲「から騒ぎ」》を、山田耕筰がグリエールの《ザポロージェのコサク》を、エマヌエル・メッテルがグラズノフの《交響曲第5番》やニコライ・チェレプニンの《ロスタンの「遠き王女」への前奏曲》

を、山本直忠なおただがライブツィヒ留学中の作曲の師匠であるヘルマン・グラブナーの《小さな夕べの音楽》を、それぞれ取り上げるなどして、東京に台頭したモダンな聴衆の好みにも応えようとした。が、ただただ演奏に邁進して、いつになるかわからぬ近衛の帰りを忠犬か何かのように待ちわびていたのではない。楽団員たちは企みごとを準備し始めていた。

近衛の脳裏を去らなくなっているのは、新交響楽団の演奏水準の飛躍的改善であり、そのために手取り早いのは、下手な奏者を上手な奏者にどんどん入れ替えていくことだ。古参メンバーにさらなる技量の向上を求めても限界がある。音楽家は練習すれば誰しもいくらかも伸びるわけではない。もう伸び代の少ない大人なのだ。個々の才能の問題もどうしてもある。求める水準に達しない人はなるべく辞めさせたい。そうでなければ、アジアのリーディング・オーケストラとしての新交響楽団を率いる近衛のプライドが許さない。ベルリン・フィルにさえ招聘しょうへいされるようになった近衛にとって、自らの手兵のレベルが至らぬものであっては恥である。一刻も早く腕前を上げさせたい。近衛はすっかりそういう価値観で凝り固まっている。指揮者とは一般にそうした発想をする存在ではあろう。けれど、それを諒りようとする楽団員がいたら、それはよほどおめでたい。かといって、実力と人気と人脈と金脈を考えれば、近衛を追い出すのは得策ではない。いかに彼の手を縛って、楽団員の地位を守ってゆくか。近衛がベルリン・フィルを指揮しているあいだに、そのための仕掛けづくりが進められた。

そこで重要なのはもちろん楽団員の結束だ。近衛の指揮者らしい意図を、楽団発展のために大局的見地に立ってよしとするような楽団員の大物がいては、ことは運ばない。新交響楽団

には実際、そういう大物がいた。チェロの齋藤さいとう秀雄である。近衛とは長く盟友関係にあり、近衛が初めてベルリン・フィルを指揮した1924年には、かの地に留学して大いに助けた。新交響楽団でも近衛体制を支える有力者だった。

ところが近衛が長期の洋行に出た1933年の秋のうちに齋藤の立場は変わったようである。そもそも新交響楽団の演奏会の指揮者やソリストを決めているのは誰か。建前としては新交響楽団は楽団員による自主運営組織である。その証拠に楽団員の代表者による運営委員会も作られている。けれども運営委員会の発言力は弱い。権限についての規約すらない。指揮者や曲目をどうしたいとか、給与を上げたいとか願っても、それを楽団の意思へと高めるための階梯かいていも何も用意されていない。運営委員会には有名無実なのである。なぜ権限を明らかにする規約ができないのか。楽団員側の理解によれば、作りたくても近衛と事務方トップの原善一郎が長年拒み続けているのだという。近衛は楽団運営のために私財を提供しているし、日本放送協会とのパイプも近衛が独占した恰好になっている。運営委員会はたしかに建前としてはさまざまな決定に参与すべきだろうが、実際に口を挟むにはあまりに近衛と放送局に負んぶに抱っこなのだ。建前は建前にとどめて大人しくしておけ。近衛と原の理屈である。

齋藤はそんな事情をよく呑み込んで、近衛や原に理解を示し、運営委員会の力を拡大しようとする楽員たちを抑える側に回っていた。しかし、齋藤には齋藤なりの不満が蓄積した。彼はチェロを弾くだけでは満足できない。指揮もしたいし、そのための勉強もし、種々のコンサートや放送で新交響楽団を振ってきた実績もある。トレーナーや練習指揮の仕事は常時ごまんとこなしている。齋藤なくして新交響楽団なしという



くらいだ。にもかかわらず、近衛が長いくないときでさえ、自分にあまりにもお鉢<sup>はち</sup>が回ってこない。齋藤が指揮者としては下に見ている山本直忠は定期公演に起用されているのではないか。対して自分は近衛と原に都合よくつかわれるばかり。いつまでも縁の下<sup>ひも</sup>の力持ち扱いなのか。特に原は近衛の威光を笠に着て、自分を軽んでいるのではないか。それにマネージャーとしての原の振る舞いも怪しい。日本交響楽協会時代の山田耕筰の不明朗などんぶり勘定の伝統を、元は山田の側近であった原はしっかり受け継いでいるのではないか。楽団員の給与に回るべきお金がどこかに消えているのではないか。それゆえ給料もなかなか上がらないのではないか。疑心暗鬼のオンパレードである。

さらにもうひとつ。齋藤は1930(昭和5)年からドイツに再度留学し、それまでのチェロ、指揮、作曲に加え、教育についても自信を深めていた。手近には新交響楽団の弦楽セクションだ。近衛の考える既存の楽団員の技術的限界なんてレッスン次第でまだまだどうにでもなる。現に齋藤の指導により新交響楽団は腕を上げている。楽団員は入れ替えられるまでの繋ぎ<sup>つな</sup>ではない。育てられるべきなのだ。

かくして齋藤は反近衛・反原へと寝返ったの

であろう。運営委員会のメンバーとして、ヴァイオリンの日比野愛次、加藤嘉一<sup>かいち</sup>、ヴィオラの瀧川廣<sup>ひろし</sup>、トロンボーンの大津三郎と組んだ。運営委員会の権能を定めた規約を一刻も早く作成して、楽団員を楽団運営に責任ある立場で深く関わらせるように強硬に主張し、近衛と原の権力を弱体化させる仕掛け作りに熱中した。細工は流々仕上げを御覧<sup>ごらん</sup>じろ。近衛がベルリン風を吹かせて楽団員をまた入れ替えようと策を弄する前に、先手必勝だ!

飛んで火に入る夏の虫。そんな中、近衛は得意満面で帰ってきた。《展覧会の絵》の新編曲も披露した。でも、何かが違う。齋藤はじめ、味方と思ってきた楽団員たちも、みんながよそよそしい。楽団員たちにとっては常に嫌われ役の原善一郎への風当たりも一段と強くなっているようである。近衛は圧迫感を覚えた。それは気のせいではなかった。

#### 文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

#### 次回予告

いよいよ決裂する近衛と新交響楽団。1935年8月には、ついに「無指揮者演奏会」を挙行し、新交響楽団は新たな道を歩みはじます。



# 2024年1月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

世界最高峰のオーケストラを定期的に指揮し、優れた実績を残しているトゥガン・ソヒエフが、N響をアジアにおける大切なパートナーと位置づけ、毎年来てくれるのはとても光栄なことだ。昨年同様、ロシア・ドイツ・フランスの名曲で、3つのプログラムを組み立てる。注目指揮者の“旬”が味わえる1か月となるはずだ。

### ソヒエフが“N響のラヴェル”に新しい地平を切り開く

[Aプログラム]は《組曲「マ・メール・ロワ」》と《ラ・ヴァルス》。前回もラヴェルを指揮したソヒエフは終演後、次のように語っていた。「感覚的と思われがちなラヴェルだが、実はまったく逆。全てが計算され、構造的に書かれている。今日のようにきっちり弾くことで、初めて曲の真価が伝わるのだ」。彼にとっても会心の出来栄であったようだ。

N響でラヴェルを振った指揮者と言えば、エネルギッシュなマルティノンや、色彩的なデュトワが真っ先に思い浮かぶ。緻密かつクリアでありながら、薫り高い音楽を引き出すソヒエフの芸風は、彼らと大きく異なるが、“N響のラヴェル”に新しい地平を切り開きつつあることは確かであろう。

前半は、弦と打楽器だけのユニークな編成を持つ《カルメン組曲》。フランス・オペラの代表作を、20世紀ロシアのシCHEDリンがバレエ用に編曲した。原曲の骨格をしっかりと維持しつつも、意表を突く工夫があちこちに施され、誰もが知る音楽に新しい生命が吹き込まれる。

### 並外れたソヒエフのテクニックが生きる《ロメオとジュリエット》

ソヒエフの並外れた指揮のテクニックは、師匠ムーシンの教えによるところが大きい。「やりたいことがあるなら、顔と手で示せ」と繰り返し言われたらしい。手首の動きのわずかな違いで、音量の微細な差をここまで巧みに描き分ける指揮者は、そういないのではないか。ダイナミクスや音色の変化に富んだ[Cプログラム]のプロコフィエフ《バレエ「ロメオとジュリエット」》は、そんな彼の持ち味が十分生かせる作品である。今回は独自の組曲抜粋版でお送りする。

有名な第2組曲から5曲を順にたどったあと、「朝」を切り口にした3曲が続く。活気ある街の様子を描いた〈朝の踊り〉と、意に添わぬ婚礼に向かうジュリエットの心境を反映した〈朝の歌〉〈アンティル諸島から来た娘たちの踊り〉

では、同じ朝でも、聴き手は180度違う印象を受けるだろう。終盤の3曲は、物語の中心テーマである「死」に焦点を当てる。恋人の亡骸を目にした主人公の慟哭〈ジュリエットの墓の前のロメオ〉と、激しい決闘の末の悲劇〈タイボルトの死〉。2曲の間に生命力みなぎる〈仮面〉を挟むことで、生と死のコントラストがいっそう際立つ仕掛けになっている。

## ソビエフがN響での指揮を熱望した《英雄》

[Bプログラム]は《交響曲第3番「英雄」》。ソビエフが常々、N響といちばん演奏したいベートーヴェンの交響曲として挙げていたのは、この《英雄》である。生き生きとした第1楽章に始まり、葬送行進曲を経て、壮大な変奏曲へとつながる、スケールの大きな構成。ドラ

マティックな音楽を描き切る上で、不足のないオーケストラと認めてくれたことだろう。《カルメン》《ロメオとジュリエット》に続き、エロス(愛)とタナトス(死)の対比を基軸とする、今月のプログラムの締めにくさわしい選曲だ。

前半は、こちらもソビエフがかねてより演奏を望んでいたモーツァルトの《協奏交響曲 変ホ長調》。ゲスト・コンサートマスターの郷古廉と、ヴァイオリン首席・村上淳一郎という、N響の誇るスター2人がソロを務める。村上はちょうど10年前、当時在籍していたケルンWDR交響楽団でこの曲を演奏し、大いに話題を呼んだ。N響に移って3年、信頼関係を深める仲間とともに、再び至福の時間をもたらしてくれるに違いない。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 1/13 土  
6:00pm  
1/14 日  
2:00pm

NHKホール

ビゼー(シCHEDリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」

ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

指揮：トゥガン・ソビエフ



**B** 1/24 水  
7:00pm  
1/25 木  
7:00pm

サントリーホール

モーツァルト／

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：トゥガン・ソビエフ

ヴァイオリン：郷古廉(N響ゲスト・コンサートマスター)\*

ヴィオラ：村上淳一郎(N響首席ヴァイオラ奏者)

\*当初発表の出演者から変更となりました。



**C** 1/19 金  
7:30pm  
1/20 土  
2:00pm

NHKホール

リヤードフ／交響詩「キキモラ」作品63

プロコフィエフ(ソビエフ編)／バレエ組曲「ロメオとジュリエット」

指揮：トゥガン・ソビエフ



# チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	発売中
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行) / 2024年2月16日[金](一般)

## 料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

( )内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	12・1・2月	発売中
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行) / 2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※[WEBセレクト3+]の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響	<a href="https://nhkso.pia.jp">https://nhkso.pia.jp</a>	
	N響ガイド   TEL 0570-02-9502		<ul style="list-style-type: none"><li>●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業</li><li>●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業</li><li>●電話受付のみの営業</li></ul>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

# 2023-24定期公演プログラム

2023 12	A	第2000回 12/16(土) 6:00pm 12/17(日) 2:00pm	渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き 第2000回定期公演 マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「千人の交響曲」[ファン投票選出曲] 指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:ジャクリン・ワグナー*, ヴァレンティーナ・ファルカシム、三宅理恵 アルト:オシダ・ベルロヴァ、カリシオ・モリソン、テノール:ミハエル・シューデ、バリトン:ウカ・ストリフ バス:ダヴィッド・シュタフンス 合唱:新国立劇場合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 ★当初発表の出演者から変更となりました。	一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,200 D ¥5,000 D ¥2,500 E ¥3,300 E ¥1,600	
		B	第1999回 12/6(水) 7:00pm 12/7(木) 7:00pm	レーガールの気品あふれる名作をルイーゼの指揮で聴く レーガール生誕150年 ハイドン／交響曲 第100番 卜長調 Hob. 1-100「軍隊」 リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 レーガール／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:アリス・紗良・オット	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
			C	第1998回 12/1(金) 7:30pm 12/2(土) 2:00pm	目くるめく夢幻 荒れ狂う狂騒 ルイーゼの《幻想》 フンパーディング／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
2024 01	A			第2001回 1/13(土) 6:00pm 1/14(日) 2:00pm	舞台音楽に通曉するソビエフのフランス&ロシア バレエ音楽の精華 ビゼー(シチエドリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」 ラヴェル／組曲「マ・メール・ロフ」 ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」
		B		第2003回 1/24(水) 7:00pm 1/25(木) 7:00pm	N響が誇るトップ奏者たちがモーツァルトで腕を振るう モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:トウガン・ソビエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト-コンサートマスター)* ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者) ★当初発表の出演者から変更となりました。
			C	第2002回 1/19(金) 7:30pm 1/20(土) 2:00pm	ソビエフが切実に描く 恋人たちの悲劇 リャードフ／交響詩「キキモラ」作品63 プロコフィエフ(ソビエフ編)／バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
2024 02	A			第2004回 2/3(土) 6:00pm 2/4(日) 2:00pm	井上道義 最後のN響定期でショスタコーヴィチの問題作を問う ヨハン・シュトラウスII世／ポルカ「クラップフェンの森で」作品336 ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」[「リリック・ワルツ」]小さなポルカ「ワルツ第2番」 ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」* 指揮:井上道義 バス:アレクセイ・ティホミーロフ** 男声合唱:オルフェイ・ドレンガル男声合唱団* ※当初発表の出演者から変更となりました。
		B		第2006回 2/14(水) 7:00pm 2/15(木) 7:00pm	エラス・カサド 母国の名作を携え5年ぶりにN響定期登場 ラヴェル／スペイン狂詩曲 プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 短調 作品63 フィリッパ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)* 指揮:バブロ・エラス・カサド ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ ソプラノ:吉田珠代*
			C	第2005回 2/9(金) 7:30pm 2/10(土) 2:00pm	情熱の人 大植英次 四半世紀を経て再びN響定期の舞台に ワグナー／ジークフリートの牧歌 R. ショトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:大植英次

(料金はすべて税込)

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2024 04	<b>A</b> 第2007回	4/13(土) 6:00pm 4/14(日) 2:00pm	妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓くブラームス(第1番)の新たな世界 シューベルト/交響曲 第4番 八短調 D.417 ブラームス/交響曲 第1番 八短調 作品68	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	NHKホール	指揮:マレク・ヤノフスキ			
	<b>B</b> 第2009回	4/24(水) 7:00pm 4/25(木) 7:00pm	巨匠が生涯をかけて探究する シューマンの奥深き世界 シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129 シューマン/交響曲 第2番 八長調 作品61	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
サントリーホール	指揮:クリストフ・エッセンバッハ チェロ:キアン・ソルターニ				
<b>C</b> 第2008回	4/19(金) 7:30pm 4/20(土) 2:00pm	巨匠エッセンバッハ 満を持してブルックナーをN響で初披露 ブルックナー/交響曲 第7番 ホ長調	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
NHKホール	指揮:クリストフ・エッセンバッハ				
2024 05	<b>A</b> 第2010回	5/11(土) 6:00pm 5/12(日) 2:00pm	眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い バンフィリ/戦いを生きる [日本初演] レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ/交響詩「ローマの松」 レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400	
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ			
	<b>B</b> 第2012回	5/22(水) 7:00pm 5/23(木) 7:00pm	デンマーク国立響のシェフ ルイージがN響でニルセンを初披露 ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15 ニルセン/交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
サントリーホール	指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:ルドルフ・フビンダー				
<b>C</b> 第2011回	5/17(金) 7:30pm 5/18(土) 2:00pm	ルイージ&N響のメンデルスゾーン第2弾《夏の夜の夢》&《宗教改革》 メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽 —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」 メンデルスゾーン/交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ				
2024 06	<b>A</b> 第2013回	6/8(土) 6:00pm 6/9(日) 2:00pm	盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャービンの世界 スクリャービン/夢想 作品24 スクリャービン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20 スクリャービン/交響曲 第2番 八短調 作品29	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	NHKホール	指揮:原田慶太楼 ピアノ:反田恭平			
	<b>B</b> 第2015回	6/19(水) 7:00pm 6/20(木) 7:00pm	楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く ウェーベルン/バツカリア 作品1 シェーンベルク/ヴァイオリン協奏曲 作品36 バッハ(ウェーベルン編)/リチエルカータ シューベルト/交響曲 第5番 変ロ長調 D.485	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
サントリーホール	指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト				
<b>C</b> 第2014回	6/14(金) 7:30pm 6/15(土) 2:00pm	定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム イベール/寄港地 ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲 ドビュッシー/夜想曲*	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
NHKホール	指揮:沖澤のどか ピアノ:デニス・コジュビン 女声合唱:東京混声合唱団*		(料金はすべて税込)		

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

## 特別公演

12/22 金 7:00pm

12/23 土 2:00pm

12/24 日 2:00pm

12/26 火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:下野竜也 ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:脇園 彩 テノール:村上公太 バス:河野鉄平

合唱:新国立劇場合唱団

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円

ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引(26日公演をのぞく)

※12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(26日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502 / NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (26日公演のみ)

12/27 水 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:下野竜也 オルガン:勝山雅世\* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ／18のライプチヒ・コラール―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654\*

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502



3/9 4:00pm | N響 大河ドラマ&名曲コンサート

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:三浦文彰\* 特別ゲスト:高橋英樹 ゲスト:坂田晃一 ナビゲーター:山田美也子

[第1部 大河ドラマ編]

黄金の日々(1978/池辺晋一郎)

どうする家康(2023/稲本 響)

春の坂道(1971/三善 晃)

国盗り物語(1973/林 光)

花神(1977/林 光)

山河燃ゆ(1984/林 光)

おんな太閤記(1981/坂田晃一)

いのち(1986/坂田晃一)

真田丸(2016/服部隆之)\*

光る君へ(2024/冬野ユミ)

[第2部 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ヴィヴァルディ/「四季」—「春」\*

スメタナ/交響詩「モルダウ」

J. シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

料金(税込):一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席6,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席3,000円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団

後援:豊島区

お問合せ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm

定休日:土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

## 各地の公演

12/9(土) 3:00pm

松戸市制施行80周年・森のホール21開館30周年記念事業

森のホール21クラシックス Vol. 4 NHK交響楽団

森のホール21 大ホール

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アリス・紗良・オット  
ハイドン／交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100「軍隊」  
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調  
レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132

主催:公益財団法人 松戸市文化振興財団  
お問合せ:森のホール21チケットセンター TEL (047) 384-3331

1/27(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター) ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者)  
モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364  
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催:NHK大阪放送局、NHK交響楽団  
お問合せ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

2/18(日) 4:30pm | NHK交響楽団特別公演 パブロ・エラス・カサド&牛田智大

RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや) 大ホール

指揮:パブロ・エラス・カサド ピアノ:牛田智大  
ベートーヴェン／序曲「コリオラン」作品62  
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491  
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催:(公財)さいたま市文化振興事業団  
お問合せ:RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや) TEL (048) 641-6131

2/21(水) 7:00pm | 2024都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 55

東京芸術劇場コンサートホール

指揮:沼尻竜典 チェロ:カミーユ・トマ  
ドヴォルザーク／スラヴ舞曲 第1集—第1番 ハ長調 作品46-1  
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 口短調 作品104  
シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

---

## 2/22☾ 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 松本公演

---

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

---

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK長野放送局、NHK交響楽団  
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

---

---

## 2/24☽ 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 新潟公演

---

新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ

---

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK新潟放送局、NHK交響楽団  
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

---

---

## 2/25☽ 5:00pm | NHK交響楽団金沢特別公演

---

金沢歌劇座

---

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:石川テレビ、北陸中日新聞、サンライズプロモーション東京  
お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

---

---

## 3/1☽ 7:00pm | NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

---

パルテノン多摩 大ホール

---

指揮、クラリネット\*:アンドレアス・オッテンザマー

～オール・ブラームス・プログラム～

ブラームス/大学祝典序曲 作品80

ブラームス(ブートラック&オッテンザマー編)/クラリネット・ソナタ 第1番 へ短調 作品120-1\*

ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

ブラームス/ハンガリー舞曲集—第1番、第3番、第4番、第6番

ブラームス/ワルツ 作品39-15\*

ブラームス/ワルツ集「愛の歌」作品52—第6曲「かわいらしい小鳥が」\*

ブラームス(コンツ編)/ハンガリー舞曲集—第7番\*

ブラームス/ハンガリー舞曲集—第2番、第5番

主催:パルテノン多摩共同事業体  
お問合せ:パルテノン多摩 TEL (042) 376-8181

---

---

## 3/3☽ 3:00pm | 成田市制施行70周年記念 NHK交響楽団 成田公演

---

成田国際文化会館 大ホール

---

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催:成田市  
お問合せ:成田市シティプロモーション部文化国際課 TEL (0476) 20-1534

---

3/27(水) 3:00pm

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 15

3/30(土) 3:00pm

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ トリスタン:スチュアート・スケルトン 国王マルク:フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ

イゾルデ:ビルギッテ・クリステンセン クルヴェナール:マルクス・アイヒェ メロート:甲斐栄次郎

ブランゲーネ:ルクサンドラ・ドノーセ 牧童:大槻孝志 かじとり:高橋洋介 若い水夫:金山京介

合唱:東京オペラシンガーズ

ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会

共催:NHK交響楽団

お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

4/7(日) 3:00pm | The 20th Anniversary ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ウォータン:マルクス・アイヒェ

ローゲ/ジークムント/ジークフリート:ヴィンセント・ウォルフシュタイナー フリッカ:杉山由紀

ウォークリンデ:富平安希子 ウェルグンデ:秋本悠希 フロースヒルデ:金子美香

ジークリンデ:エレーナ・バンクラトヴァ 森の鳥:中畑有美子(ソプラノ) ブリュンヒルデ:エレーナ・バンクラトヴァ ほか

ワーグナー/楽劇「ニーベルングの指環」より

「ラインの黄金」—第4場「城へと歩む橋は……」~第4場フィナーレ

「ワルキューレ」—第1幕 第3場「父は誓った 俺がひと振りの剣を見出すと……」~第1幕フィナーレ

「ジークフリート」—第2幕「森のささやき」~フィナーレ、第2場「あいつが父親でないとはうれしくてたまらない」、

第3場「親切な小鳥よ 教えてくれ……」

「神々のたそがれ」—第3幕 第3場 ブリュンヒルデの自己犠牲「わが前に 硬い薪を積み上げよ……」

主催:東京・春・音楽祭実行委員会

共催:NHK交響楽団

お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

5/3(金祝) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2024

東京文化会館 大ホール

指揮:坂入健司郎 ヴァイオリン:木嶋真優

ハチャツウリアン/ヴァイオリン協奏曲 二短調

シヨスタコーヴィチ/交響曲 第5番 二短調 作品47

主催:MIYAZAWA & Co.

お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

---

## オーチャード定期

---

### Bunkamura オーチャードホール

---

**1/8** **月祝** **3:30pm**

---

指揮:準・メルクル ソプラノ:森野美咲\*  
デュカス/交響詩「魔法使いの弟子」  
トマ/歌劇「ミニョン」よりボロネーズ「私はティタニア」\*  
J. シュトラウスII/常動曲 作品257  
J. シュトラウスII/ワルツ「春の声」作品410\*  
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

---

### 横浜みなとみらいホール 大ホール

---

**3/2** **土** **3:30pm**

---

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長   矢内 廣

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   森 俊哉	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長   當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ (株)NHK アート 代表取締役社長   平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   長村 中
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長   荒木美弥子
・ (株)あ佳音 代表取締役社長   遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   有吉伸人
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長   長谷川章博	・ 伊東国際特許事務所 所長   伊東忠重	・ (学)NHK 学園 理事長   等々力 健
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO)   中島伸子	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役   傍田賢治
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役   山下智之	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長   松本浩司
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長   野口周一
	・ 内 聖美	



- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・(株)エレクトク  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・カンオ計算機(株)  
代表取締役社長CEO兼CHRO  
増田裕一
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(仮)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマックス・ホールディングス  
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山  
院長 | 松木隆史
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則

- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)  
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通  
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)  
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・日興アセットマネジメント(株)  
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)  
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ  
取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所  
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)  
代表取締役社長 CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン  
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也

- 三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- (株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 永田周太郎
- 三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- 三原穂積
- (株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
- (学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直敬
- (株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- (株)明電舎  
執行役員社長 | 井上晃夫
- メットライフ生命保険(株)  
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- (株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵
- (株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志

- 森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- 森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- 矢下茂雄
- 山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- (株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- (株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 西村 淳
- ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- 米澤文彦
- (株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- (株)読売旅行  
代表取締役社長 | 真広貴志
- リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
木村和宏

- 料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- (株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- (有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 田淵浩記
- YCC(株)  
社長 | 中山武之
- 渡辺敦郎・優子  
  
(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間バンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

# NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
村尾隆人  
○山岸 努  
○横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也

山田慶一  
横山俊朗  
米田有花

飯塚歩夢  
東條太河

## ヴィオラ

◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
○中 実穂  
○西山健一  
藤村俊介  
藤森洗一  
宮坂拓志

村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

◎吉田 秀  
○市川雅典  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
○西山真二  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
中村淳二

## オーボエ

◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司

## ファゴット

◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
石山直城  
勝保 泰  
木川博史  
庄司雄大  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハープ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

## 曲目解説執筆者

### 池上健一郎 (いけがみ けんいちろう)

京都市立芸術大学音楽学部教授、慶應義塾大学非常勤講師。ヴェルツブルク大学でハイドンと古典派時代の音楽に関する研究により博士号取得。専門は18～19世紀のドイツ音楽。著書に『ハイドン』（作曲家・人と作品シリーズ）、論文に「ハイドンのシンフォニーにおける変奏反復と管弦楽法のストラテジー」「『二重の存在』としてのブルックナー——《交響曲第9番》第3楽章（アダージョ）における自立性と標題性をめぐって」など。

### 沼野雄司 (ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士（音楽学）。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著書に『音楽学への招待』『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

### 広瀬大介 (ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇 サロメ』『楽劇 エレクトラ』『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツ、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

(五十音順、敬称略)

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。



# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda
  
- Ayumu Iizuka
- Taiga Tojo

## Violas

- Ryo Sasaki
- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

## Oboes

- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

## Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

## Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(○) Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector

PROGRAM

A

Concert No.2000

NHK Hall

December

16 (Sat) 6:00pm

17 (Sun) 2:00pm

conductor	Fabio Luisi
sopranos	Jacquelyn Wagner*, Valentina Farcas, Rie Miyake
altos	Olesya Petrova, Catriona Morison
tenor	Michael Schade
baritone	Luke Sutliff
bass	David Steffens
chorus	New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorus master)
children chorus	NHK Tokyo Children Chorus (Noriko Kaneda, children chorus master)
concertmaster	Fuminori Maro Shinozaki

\*Changed from initially scheduled.

The 2000th Subscription Concerts

**Gustav Mahler**  
**Symphony No. 8 E-flat Major,**  
***Symphonie der Tausend***  
**(*Symphony of a Thousand*) [85']**

I: Hymn: *Veni, creator spiritus*

II: Final Scene of *Faust*

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

## Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001, and in September 2022 he became Chief Conductor of the orchestra. In the 2022–23 season, his first season after assuming the post, Fabio Luisi conducted Verdi's *Requiem* to commemorate his appointment in September. He has presented works of German and Austrian composers such as Beethoven, Brahms, Bruckner and R. Strauss as well as those of Franck and Saint-Saëns, Francophone composers, and with his conducting style full of passion and poetic sentiment, has captured the hearts of many of audience members. In August 2023, his tenure as Chief Conductor was extended by three years until August 2028.

He was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande and Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Royal Concertgebouw Orchestra, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses. Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

## Jacquelyn Wagner, soprano



American soprano Jacquelyn Wagner, who sings in opera houses in Europe and the U.S., was born into a musical family, her father being a horn player of the Detroit Symphony Orchestra, and has studied at the Manhattan School of Music and the Oakland University of Michigan. She has won many international competitions including the International Singing Competition Francisco Viñas and the Renata Tebaldi International Voice Competition, and launched her career as an ensemble member of the Deutsche Oper Berlin, where she performed numerous roles, including the Countess in *Le nozze di Figaro* and Violetta in *La Traviata*.

In 2014, she came under the spotlight by singing the title role in R. Strauss's *Arabella* (directed by Christof Loy) at the Netherlands Opera, and has since appeared at the world's renowned

opera houses and music festivals, including the Opéra de Paris, the Teatro alla Scala, the Opernhaus Zürich, the Salzburg Easter Festival and Festival International d'Art Lyrique d'Aix-en-Provence. The roles she has sung in recent years include Eva in *Die Meistersinger von Nürnberg* conducted by Christian Thielemann, and Donna Anna in *Don Giovanni* conducted by Riccardo Muti. She has also appeared in many concerts, and this is her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. I am sure she will delight us with her clear and transparent voice in Mahler's symphony.

---

## Valentina Farcas, soprano



Valentina Farcas is a Romanian soprano, captivating her audience with her lively, bright voice and powerful singing. Born to musical parents, who were both singers at the Bucharest National Opera, she studied piano at the Bucharest Academy of Music, shifted to study vocal music and graduated from the Folkwang University of Arts in Essen, Germany. From 2002, she performed as a singer with the Berlin Komische Oper.

She achieved international fame after singing the role of Blonde of Mozart's *Die Entführung aus dem Serail* at the Salzburg Festival in 2006, and started to appear at opera houses across Europe. She has enjoyed a wide repertoire ranging from Susanna in *Le nozze di Figaro*, Adina in *L'elisir d'amore*, Gilda in *Rigoletto*, Sophie in *Der Rosenkavalier*, to Jenny in Weill's *The Rise and Fall of Mahagonny*.

In orchestral concerts, she has worked with many renowned conductors such as Riccardo Muti and Christopher Hogwood. In September 2019, she appeared with the NHK Symphony Orchestra under Paavo Järvi as a soloist in R. Strauss's *Capriccio Final Scene*, singing with delicate expression to move the hearts of audience. She worked with Fabio Luisi in Mahler's Symphony No. 2 *Resurrection* by the Danish National Symphony Orchestra and by Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai as recently as 2022, therefore expectations are high for her fascinating voice in Mahler's 8th Symphony.

---

## Rie Miyake, soprano



Tokyo-born Rie Miyake is one of Japan's rising soprano singers. She graduated from Tokyo College of Music, completed her master's degree at the graduate school, and subsequently went to New York in 2006 to study under the tutelage of Dawn Upshaw, and in 2009, completed the master's program at Bard Conservatory of Music in New York. In 2010, she won the Encouragement Award at the Fujisawa Opera Competition, and

has appeared in numerous opera performances in Japan, singing the roles such as Frasquita in *Carmen* staged at Seiji Ozawa Music Academy, Marzelline in *Fidelio* at Nissay Theatre, Harry in Dai Fujikura's *Solaris*, Nannetta in Tokyo Nிகাই's *Falstaff* and Flower Maiden in *Parsifal* at the New National Theatre. In particular, she came into the spotlight when she sang the title role of Stravinsky's *Le Rossignol* at the New National Theatre in 2021, and opened up new horizons

when she sang the role of Erica in *Super Angels* making headlines in co-starring with an artificial intelligence.

She also appeared in many orchestral concerts, including Saito Kinen Orchestra's Mahler Symphony No.2 *Resurrection* under Fabio Luisi in August 2016. She first worked with the NHK Symphony Orchestra singing the role of Zerlina in *Don Giovanni* (concert style) conducted by Paavo Järvi in September 2017, then in the orchestra's 2022 Hotto Concert, she worked as both singer and narrator in Hikaru Hayashi's *Gauche the Cello Player*. She will surely delight her audience with her beautiful high-pitched voice. She is a member of Nikikai.

---

## Olesya Petrova, alto



Olesya Petrova is a Russian mezzo-soprano with a powerful and intense voice. She was born in Leningrad, and graduated from the Rimsky-Korsakov St. Petersburg State Conservatory. She won 2nd prize at the 13th Tchaikovsky International Competition (vocal, female section) in 2007, and the 1st prize at the 2nd Paris Opera Competition in 2012. She was a soloist of the St. Petersburg Conservatory Opera and Ballet Theatre from 2007 to 2016 while in 2014, she made her debut at the Metropolitan Opera singing the role of Madelon in *Andrea Chénier*. From 2016, she belonged to the Mikhailovsky Theatre, playing the roles of Ulrika in *The Masquerade*, Santuzza in *Cavalleria Rusticana*, and the Countess in *The Queen of Spades*. Until now she has appeared in major theatres including the Deutsche Oper Berlin, the Operhaus Zürich, the Hamburgische Staatsoper, the Teatro Real of Madrid and the Gran Teatro del Liceu in Barcelona. In 2018, she marked her first appearance at the Bolshoi Theatre, performing the role of Polina in *The Queen of Spades* under the baton of Tugan Sokhiev. She has also been a featured guest at the Arena di Verona Festival in 2017, 2021, 2022, and 2023, where she sang her signature role, Amneris in *Aida*. She also made her Royal Opera House debut with this role in 2023. She has also been actively appearing in concerts. This is her second collaboration with the NHK Symphony Orchestra following September 2022 when she sang in Verdi's *Requiem* under Fabio Luisi. The subtle expressions she brings to her singing will surely stand out in the performance.

---

## Catriona Morison, alto



Catriona Morison is a Scottish-German mezzo-soprano singing in a richly-expressive beautiful clear voice. She was born in Edinburgh, and after studying violin and viola and joining a local choir, she switched to study vocal music and studied at the Royal Conservatoire of Scotland and Berlin University of the Arts. She began performing with an opera studio in Weimar, and from 2016 to 2018, as a member of the ensemble of Oper Wuppertal, sang the roles of Nicklaus in *The Tales of Hoffmann* and Charlotte in *Werther*. After winning the BBC Cardiff Singer of the World Competition in 2017, she has continuously appeared in renowned opera houses and music festivals in Europe, including the Edinburgh International

Festival, the Oper Köln, and the Hamburgische Staatsoper. In 2022, she sang Fricka in *Das Rheingold* at the Staatstheater Braunschweig and Nerone in Monteverdi's *L'incoronazione di Poppea* at the Oper Wuppertal. In the field of orchestral concerts, she made her debut at the BBC Proms in 2019. She worked under Fabio Luisi singing Schönberg's *Gurre-Lieder* with the Danish National Symphony Orchestra in September 2022. This is her first appearance with the NHK Symphony Orchestra. We look forward to her warm voice amplifying through Mahler's Symphony.

---

## Michael Schade, tenor



Celebrated as one of the leading tenors of our times, German-Canadian Michael Schade appears regularly on all of the important opera houses and concert stages of the world. Since his debut in 1991, opera and concert performances have taken him to the Verbier, Lucerne, and Salzburg Festivals, the Vienna, Hamburg and Berlin State Operas, the Metropolitan Opera and Canadian Opera Company. With his powerful

yet delicate singing, he has performed almost all major roles of Mozart's operas, and boasts a wide repertoire, including the works of Beethoven, R. Strauss and Dvořák. In addition to his opera career, Michael Schade devotes much of his artistry to concert and recitals. He appears regularly with the leading orchestras of the world, under such renowned conductors as Bolton, Harding, Jansons, P. Järvi, Muti, Nagano, Nézet-Séguin, Rattle, Thielemann, Ticciati and Young.

He first worked with the NHK Symphony Orchestra in September 2016 performing in *Symphonie der Tausend* (*Symphony of a Thousand*) under Paavo Järvi in the concert to commemorate the 90th anniversary of the orchestra's founding, and in September 2019, he returned to the orchestra to sing the role of Florestan in *Fidelio* (concert style) conducted by Paavo Järvi to celebrate the 250th anniversary of the birth of Beethoven. In 2007 the Vienna State Opera has awarded Mr. Schade with the title Austrian Kammersänger. In 2017 Michael Schade was granted the title Officer to the Order of Canada (O.C.) and he has been a professor at the University of Music and Performing Arts Vienna since 2019.

---

## Luke Sutliff, baritone



Luke Sutliff from Denver, Colorado, is a rising baritone. He graduated from the Shepherd School of Music at Rice University and received a master's degree from the university in 2021. He also studied at the Juilliard School of Music (graduating in 2019). He has appeared in many productions including Purcell's *Dido and Aeneas* and Offenbach's *Orphée aux Enfers* with Juilliard 415, Juilliard's early music ensemble, Janáček's

*Káta Kabanová* and Bellini's *La Sonnambula* in collaboration with the Metropolitan Opera's Lindemann Young Artist Development Program. At the Santa Fe Opera, he sang the roles of Demetrius in Britten's *A Midsummer Night's Dream* in 2021, and the title role of Monteverdi's *Orfeo*, arranged by Nico Muhly in 2023. Since 2021, as a member of the Houston Grand Opera Studio, he has performed in many operatic works, including *Carmen*, *Dialogue of the Carmelites*,



*Tosca*, and *Romeo and Juliet*. He has been scheduled to sing the roles of Figaro in Seattle Opera's *The Barber of Seville*, and Demetrius in *A Midsummer Night's Dream* by Atlanta Opera. He is an up-coming young singer attracting the world attention. This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

---

## David Steffens, bass



David Steffens, a bass from Bad Reichenhall, Germany, graduated from the Mozarteum University Salzburg in 2011, where he attended master classes with Dietrich Fischer-Dieskau. The same year, he made his debut at the Salzburg State Theatre as Bartolo in Mozart's *Le nozze di Figaro*. He later joined the Oper Stuttgart as an exclusive singer, performing the roles such as Sarastro in *Die Zauberflöte*, King Heinrich in *Lohengrin*, Escamillo in *Carmen*, and many others. He has also appeared at Sächsische Staatskapelle Dresden, Teatro Real de Madrid and Volksoper Wien. In 2018, he made a debut at the Salzburg Festival singing in *Salome*, and in 2021, appeared as Masetto in *Don Giovanni* (directed by Castellucci). Recent and upcoming highlights include his house debut at the Berlin State Opera as Ochs auf Lerchenau / *Der Rosenkavalier*, Hunding / *Die Walküre* in Stuttgart and König Marke / *Tristan und Isolde* at Opéra de Lille.

In orchestral concerts, he has worked with renowned conductors including Simon Rattle, Zubin Mehta, Theodor Currentzis, and with Fabio Luisi / the Danish National Symphony Orchestra in Schoenberg's *Gurre-Lieder* (September 2022). With his flexible bass range, he stands as a forerunner among the next generation of basses. This is his first appearance with the NHK Symphony Orchestra.

---

## New National Theatre Chorus, chorus

The New National Theatre Chorus started its activities in April 1998 as the chorus to work with the New National Theatre, Tokyo (NNTT), which was inaugurated in October 1997. Its members are all excellent singers and actors, and their rich voices and ability to harmonize well with players on stage are highly regarded by operatic singers, conductors, stage directors they work with, as well as by critics both at home and abroad. In addition to working with the New National Theatre, the chorus has worked with Japan's major orchestras as well as those overseas including the Royal Concertgebouw Orchestra, the Berliner Philharmoniker and the Cleveland Orchestra to expand its scope of its activities.

The chorus first worked with the NHK Symphony Orchestra in 2004 for *Götterdämmerung* staged at the NNTT, and participated in *Fidelio* (concert style) performed by the NHK Symphony Orchestra under Paavo Järvi to mark the 250th anniversary of Beethoven's birth in 2019. Apart from those, the chorus has often performed in the orchestra's subscription concerts, including Mozart's *Mass in C minor* staged in November 2019 and Mahler's Symphony No. 2 *Resurrection* in January 2020. Their first collaboration with Fabio Luisi was in September 2022 when they sang in Verdi's *Requiem*. Their impressive performance full of power is still fresh in our memory.

---

## NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

The NHK Tokyo Children Chorus (formerly known as Tokyo Broadcasting Children's Chorus Group), was formed in March 1952 for the purpose of consolidating educational programs as well as programs for children on NHK for the healthy growth of the minds and spirits of children. In addition to appearing on NHK TV and radio, it has frequently worked with major Japanese orchestras and engaged in international exchanges with overseas chorus groups. It has also commissioned choir works to Japanese composers, and introduces many of them in Japan and overseas. In 2022, the chorus marked the 70th anniversary of its founding. The chorus has won numerous awards both at home and abroad, including 1st prize in the children's category of the Centennial of Zoltán Kodály's Birth Competition and the grand prix in the competition's general category. In 2009, the chorus took part in a concert along with the NHK Symphony Orchestra to celebrate the 50th anniversary of the marriage of the Emperor and Empress and the 20th anniversary of the Emperor's enthronement. It often performs operatic works including those staged at the New National Theater in Tokyo. In 2023, it participated in Tokyo Nikikai's *Turandot*. Since 2010, it has often worked with the NHK Symphony Orchestra, and sang Orff's *Carmina Burana* at the NHK Music Festival 2018, and Tchaikovsky's ballet suite *The Nutcracker* in December 2018.

[Jacquelyn Wagner, Valentina Farcas, Rie Miyake, Olesya Petrova, Catriona Morison, Michael Schade, Luke Sutliff, David Steffens, New National Theatre Chorus, NHK Tokyo Children Chorus by Junko Shibatsuji, music critic]

---

### Program Note | Kumiko Nishi

---

#### Gustav Mahler (1860–1911)

---

## Symphony No. 8 E-flat Major, *Symphonie der Tausend* (*Symphony of a Thousand*)

Born in Bohemia in the Austrian Empire, Mahler was a truly epochal composer. All his symphonic works are the epitome of late Romanticism with their highly expressive and reflective nature, great length and colossal formation, the Eighth (1907) surely representing this monumentality the most. Although the composer disliked its skin-deep tag, *Symphonie der Tausend* (*Symphony of a Thousand*) given by an impresario for advertisement, the 1910 premiere conducted by Mahler reportedly required as many as around 1030 musicians.

The main factor of such scale is the presence of a mass of voices beside an extended orchestra and an organ, calling for eight solo singers, two mixed choruses and a children's choir. This blending of symphony and human voice followed admittedly the later movement(s) of Beethoven's Ninth, Mahler's Second (*Resurrection*) and Third, but the latter's Eighth was novel in that the vocal force plays a vital role throughout the work both as a carrier of lyrical content and as an essential component of the symphony's structure.

Untraditionally, the Eighth is in two "parts" but not in several movements. The two are

disproportionate and seemingly heterogeneous: Part 2 is more than twice as long as Part 1. The Latin text of Part 1 – the medieval hymn for Pentecost *Veni, creator spiritus* – is sacred and old, while the German text of Part 2 – from the closing scene of Goethe’s *Faust* (1808/1832) – is secular and more recent. However, the two parts actually treat the common Christian subject which is the redemption through divine love (Mahler, of Jewish origin, converted to Catholicism in 1897). Also, the both parts share some melodies/motifs conveying similar spiritual ideas to secure musical consistency of the entire work.

Part 1 is an enlarged sonata. As soon as the organ opens the work resounding the tonic chord of the main key (E-flat major), the double mixed choruses introduce the jubilant first theme on *Veni, creator spiritus* (*Come, Creator Spirit*). The gentler second theme is given by a soprano solo on *Imple superna gratia, quae tu creasti pectora* (*Fill with grace from above, those hearts that you created*).

Part 2 has an extended instrumental introduction in E-flat minor depicting “mountain gorges, forest, rocks, desert” inhabited by anchorites. The Allegro section let Angels (women’s chorus) carry Faust’s immortal soul which is then received by Blessed Boys (children’s choir). The Adagissimo section features three penitents – Magna Peccatrix (soprano), Mulier Samaritana (alto), Maria Aegyptiaca (alto) – and a fourth penitent “formerly known as Gretchen” (Faust’s erstwhile lover, soprano) who pleads with Mater Gloriosa (the Virgin Mary) for Faust’s soul recalling the second *gratia* theme and then the first *veni* theme of Part 1: Mater Gloriosa (soprano) allows Gretchen to lead the soul heavenward saying “Komm! hebe dich zu höhern Sphären! (Come, rise up to higher spheres!) ...” Towards the end of the final “Mystical Chorus,” the massive sound is further fortified by the off-stage brass ensemble blowing the *veni* theme, to bring the positive, majestic closing in E-flat major.

### Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.1999

Suntory Hall

December

6 (Wed) 7:00pm

7 (Thu) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 63

piano

Alice-Sara Ott

concertmaster

Sunao Goko

The 150th Anniversary of Max Reger's Birth

**Franz Joseph Haydn**  
**Symphony No. 100 G Major**  
**Hob. I-100, *Military* [24']**

- I Adagio – Allegro
- II Allegretto
- III Menuet: Moderato – Trio
- IV Presto

**Franz Liszt**  
**Piano Concerto No. 1 E-flat Major**  
**[19']**

- I Allegro maestoso
- II Quasi adagio
- III Allegretto vivace
- IV Allegro marziale animato

— intermission (20 minutes) —

**Max Reger**  
**Variations and Fugue on a Theme**  
**by Mozart Op. 132 [35']**

- Theme: Andante grazioso
- Var. I: L'istesso tempo
- Var. II: Poco adagio
- Var. III: Con moto
- Var. IV: Vivace
- Var. V: Quasi Presto
- Var. VI: Sostenuto
- Var. VII: Andante grazioso
- Var. VIII: Molto sostenuto
- Fuge: Allegretto grazioso

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

**Alice-Sara Ott, piano**



© Pascal Allard/Oniro

Alice-Sara Ott signed an exclusive contract with a prestigious German classical music label at the age of nineteen. Since her spectacular debut at the age of twenty by releasing the album of Liszt's *Transcendental Etudes*, she has consistently redefined classical music from an advanced and creative perspective, and continues to offer innovative presentations. Her 10th album titled *Echoes of Life* released in 2021 has made headlines

because of the combination of Chopin's preludes and contemporary works, and her new form of concerts on *Echoes of Life* in collaboration with architect Hakan Demirel, using video works, were successful in London, Paris, Munich, and Tokyo.

Until now she has worked with renowned orchestras such as the Berliner Philharmoniker, the Los Angeles Philharmonic, the London Symphony Orchestra, the Philharmonia Orchestra, and the Wiener Symphoniker. An album of Beethoven's Piano Concerto No.1 which she played with the Netherlands Radio Philharmonic Orchestra conducted by Canellakis was released in autumn this year. This is her fifth appearance since her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in 2012, after an absence of five years. Under the baton of Fabio Luisi, she will delight her audience by weaving a bold, exhilarating, yet delicate sound in Liszt's Piano Concerto No.1.

[Alice-Sara Ott by Arisa Iida, music facilitator]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

**Franz Joseph Haydn (1732–1809)**

### **Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, *Military***

Music history has witnessed capable impresarios who have made opportunities for composers to create timeless masterpieces. Besides Sergei Diaghilev (1872–1929) who commissioned talented composers to write innovative ballet scores such as *The Rite of Spring* by Stravinsky, Johann Peter Salomon (1745–1815) deserves special attention. This German concert producer and violinist who was active in the UK from the early 1780s twice made happen Haydn's fruitful sojourns in London.

For his residencies in the music capital (1791–1792/1794–1795), Haydn in his mature period penned twelve symphonies (Nos.93–98/Nos.99–104) which are collectively called *the Salomon (or London) Set*. Since No. 94 *Surprise* enthralled Londoners during his first stay, Haydn might have seen No. 100 as a symphony with another enjoyable “surprise” for local curious audiences. The nickname *Military*, not by the composer, is given after the unusual instrumentation including a triangle, cymbals and a bass drum: these three typify the Turkish Janissary (infantry) bands whose music was greatly popular in Europe at the time (Wolfgang Amadeus Mozart's Piano Sonata K. 331 with *Turkish March*, detailed below, famously represents this vogue). Haydn keeps back his mini-Turkish band until the trio (central) section of the second movement. Then we hear an unexpected trumpet fanfare followed by a timpani roll immediately before the orchestra, together with the Turkish band, ends this unique Allegretto movement. After the third movement, an elegant Classical minuet, our Turkish band comes back at the finish of the brisk final movement.

**Franz Liszt (1811–1886)**

### **Piano Concerto No. 1 E-flat Major**

“What a violin! (...) Heavens! What sufferings, what misery, what tortures in those four strings!” exclaimed the twenty-year-old Liszt in 1832, after attending a concert of the violinist Niccolò Paganini for the first time. Liszt, a future piano virtuoso who had already been trained

by the renowned teacher Carl Czerny (Beethoven's pupil), made then a firm resolution to be "Paganini of the piano." Between 1839 and 1847, Liszt carried out a recital tour on unheard-of scale from the Urals to the Pyrenees, exploiting technical and expressive potential of his instrument as a composer-pianist.

The initial sketches of his Piano Concerto No. 1 date from the early 1830s and the first version was finished in 1835. It was since elaborately revised several times to be completed in 1856, provided that the first public performance by Liszt on the keyboard and Hector Berlioz on the podium was held in 1855 in Weimar. Ahead of his time, the concerto made Liszt a target of fault-findings by contemporary conservatives the best-known of whom was the critic Eduard Hanslick who called it scornfully "Triangle Concerto." The unexpected, frequent use of a triangle particularly at the starts of the last two movements is indeed noteworthy. The concerto consists of four movements performed seamlessly in a style of fantasy. The imposing theme announced at the very beginning of the first movement is "cyclic," as it will recur repeatedly in various disguises through to the ultra-virtuosic closing of the work.

## Max Reger (1873–1916)

---

### Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132

The year 2023 marks the 150th anniversary since the birth of Reger. During a comparatively short life of forty-three years, he wrote around 150 works with opus numbers plus quite a few pieces without. Interestingly enough, the German prolific composer – contemporary of Gustav Mahler (1860–1911) and Richard Strauss (1864–1949) – didn't leave us any symphonies nor operas, instead he gave us other diverse genres such as organ music – Reger was an excellent organist – and orchestral, choral or chamber music.

Reger's style was founded on the Austro-German Baroque/Classical music from Bach, Mozart, Beethoven to Brahms, anticipating the neo-Classical movement launched by Igor Stravinsky (1882–1971) a few years after Reger's death. A solid contrapuntal (polyphonic) writing that he mastered as a Bach-admirer as well as rich late-Romantic harmonies in the style of Liszt and Wagner gave Reger's traditionalist stance a depth and modernness.

Written around the outbreak of World War I, "Variations and Fugue on a Theme by Mozart" (1914) was premiered under Reger's baton in Wiesbaden in 1915, a year before he passed away. "A theme" is the one from the first movement (also a theme and variation) of Mozart's Piano Sonata in A major with *Turkish March* K. 331 (1783). At the commencement, Reger states the exquisite and faintly melancholic theme faithfully – in *Andante grazioso* (graceful) in A major as with Mozart – mainly on oboe. This is followed by its eight variations and an elaborate fugue on a subject derived from Mozart's theme. The seventh variation in F major (marked again *Andante grazioso*) which restates the theme in the almost original form in a polyphonic texture leads to an elegiac opening of the truly late-Romantic, dramatic eighth variation. This extensive final variation and the ensuing vast fugue account for nearly a half of the entire work: such greater gravity Reger placed on the denouement lets us bask in the compelling afterglow of listening. His musical homage to the past ends with the fugue's grand coda where trumpets and horns recall Mozart's A-major theme brilliantly.

---

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 69



## PROGRAM

C

Concert No.1998

NHK Hall

December

1 (Fri) 6:00pm

2 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 63

concertmaster

Yosuke Kawasaki\*

◆ **Yosuke Kawasaki:** Born in New York, Yosuke Kawasaki started learning violin at the age of six from his father, Masao Kawasaki, and subsequently studied at the Juilliard School under the tutelage of Dorothy DeLay and Hyo Kang. He has been appointed Concertmaster at orchestras in both Japan and North America including Japan Century Orchestra, Saito Kinen Orchestra and most recently, the National Arts Centre Orchestra known as the NAC Orchestra in Ottawa, Canada. He is also the Music Director of the Affinis Music Festival.

## [Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 1st from 6:45pm / Saturday 2nd from 1:15pm

Ryuto Murao(vn.), Hiroyuki Matsuda(vn.), Junichiro Murakami(vla.), Ryo Muramatsu(vla.), Masako Watanabe(vc.), Shunsuke Fujimura(vc.)

Brahms / String Sextet No. 1 B-flat op. 18—2nd Mov.

\* You may enter and leave as you please during the performance.

\* Enjoy chamber music from your own seat.

## Engelbert Humperdinck

*Hänsel und Gretel,*opera—*Prelude**(Hansel and Gretel)* [8']

## Hector Berlioz

*Symphonie fantastique, Op. 14**(Fantastical Symphony)* [50']

- I Rêveries – Passions
- II Un bal
- III Scène aux champs
- IV Marche au supplice
- V Songe d'une nuit du sabbat

- This concert will be performed with no intermission.  
- All performance durations are approximate.

## Program Notes | Kumiko Nishi

## Engelbert Humperdinck (1854–1921)

*Hänsel und Gretel, opera—Prelude (Hansel and Gretel)*

Humperdinck's *Hänsel und Gretel (Hansel and Gretel)*, like Beethoven's Ninth symphony for Japanese concert goers and Tchaikovsky's *Nutcracker* for North American families, is a December feature in German-speaking countries. One of the reasons is that the libretto by Humperdinck's sister, an adaptation of the famous tale of the Brothers Grimm, embraces Christian elements of which the most noticeable is the fourteen angels' pantomime (Act 2). Furthermore, this Christmas classic has no vicious stepmother nor cruel abandoning of her

C

1 &amp; 2. DEC. 2023

stepchildren unlike Grimm’s version: the title roles here, still in poverty, simply lose their way in the woods and do not frighten a young audience.

This “Märchenoper” (fairy-tale opera) was premiered in Weimar on December 23, 1893. While known for its inventive folk-inspired melodies, it shows influences of Richard Wagner (1813–1883) with its thick orchestration and effective utilization of leitmotifs (recurrent melodies associated with a certain character, emotion, etc.). Incidentally, Humperdinck had served as Wagner’s assistant in Bayreuth in 1881–1882 for preparing the premiere of the master’s *Parsifal*.

A delicious digest of *Hänsel und Gretel*, the *Prelude* is packed with leitmotifs used in the ensuing three acts. It begins gently with horns announcing the pietistic “Evening Prayer (or Benediction)” theme, while the following faster section starts with a trumpet fanfare derived from the “Witch’s Spell” theme. The “Prayer” theme plays an important role again during the peaceful close of the *Prelude*, just like in the opera’s cheerful happy ending.

## Hector Berlioz (1803–1869)

### ***Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastical Symphony*)**

Berlioz’s *Symphonie fantastique* (*Fantastical Symphony*) was premiered in Paris in 1830, only three years after Beethoven died. Back in 1828, the young man had heard the Classical titan’s Third and Fourth symphonies in Paris. The French romanticist recalled this electrifying experience later, writing “Beethoven opened before me a new world of music, as Shakespeare had revealed a new universe of poetry.” His *Symphonie fantastique* eventually “opened a new world” too, as a pivotal transition from the Classical symphony to the Romantic symphonic (tone) poem, a programmatic genre that Franz Liszt (1811–1886) would soon invent.

*Symphonie fantastique* is indeed programmatic, as the subtitle (“Episode in the Life of an Artist ... in Five Sections”) and the program notes\* penned by the composer clarify it. Moreover, it is autobiographical for “an Artist” is Berlioz himself who then had an obsessive one-sided love for the Irish Shakespearian actress Harriet Smithson (1800–1854). To depict the “fantastical” or even eccentric program, Berlioz employed a recurrent melody (representing the artist’s beloved) that he called “idée fixe” (fixed idea) foretelling Wagner’s above-mentioned leitmotifs. Also, Berlioz’s novel instrumentation under the influence of the operatic scoring was ideal for his fanciful drama.

I *Rêveries* (*Reveries*)– *Passions* has the pensive introduction followed by the faster section announcing the idée fixe on a flute and violins: the young protagonist falls in love with a dream woman at first sight. Sumptuous II *Un bal* (*A Ball*) is known for the first utilization of harps in the history of symphony, while pastoral III *Scène aux champs* (*Scene in the Fields*) supplies an ingenious acoustic perspective offering a dialogue between an on-stage English horn and an off-stage oboe. IV *Marche au supplice* (*March to the Scaffold*) lets the broken-hearted artist, overdosed on opium, dream of himself killing his beloved and thus being sent to the scaffold. Dead, he sees himself in his V *Songe d’une nuit du sabbat* (*Dream of a Witches’ Sabbath*) payed a visit to by the beloved’s spirit pictured by a grotesque idée fixe on a shrill clarinet sound. The backstage bells tolling the hero’s death precede the brassy, demoniac *Dies irae* (*Day of Wrath*) melody from the Catholic Mass for the Dead.

\*The versions written in 1845 and in 1855 are slightly different.

## Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 69

# The Subscription Concerts Program 2023–24

2023 12	A	Concert No. <b>2000</b>	<b>The 2000th Subscription Concerts</b>	Ordinary	Youth
		<b>December</b>	<b>Mahler</b> <i>Symphony No. 8</i> E-flat Major, <i>Symphonie der Tausend</i> ( <i>Symphony of a Thousand</i> )	S 12,000	S 6,000
		<b>16</b> (Sat) 6:00pm <b>17</b> (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Jacquelyn Wagner*, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass New National Theatre Chorus, chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus *Changed from initially scheduled.	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,000 E 3,300	A 6,000 B 4,000 C 3,200 D 2,500 E 1,600
NHK Hall					
2023 12	B	Concert No. <b>1999</b>	<b>The 150th Anniversary of Max Reger's Birth</b>	Ordinary	Youth
		<b>December</b>	<b>Haydn</b> <i>Symphony No. 100</i> G Major Hob. I-100, <i>Military</i> <b>Liszt</b> <i>Piano Concerto No. 1</i> E-flat Major <b>Reger</b> <i>Variations and Fugue on a Theme by Mozart</i> Op. 132	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		<b>6</b> (Wed) 7:00pm <b>7</b> (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Alice-Sara Ott, piano		
Suntory Hall					
2023 12	C	Concert No. <b>1998</b>	<b>Humperdinck</b> <i>Hänsel und Gretel</i> , opera— <i>Prelude</i> ( <i>Hänsel and Gretel</i> ) <b>Berlioz</b> <i>Symphonie fantastique</i> , Op. 14 ( <i>Fantastical Symphony</i> )	Ordinary	Youth
		<b>December</b>		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		<b>1</b> (Fri) 7:30pm <b>2</b> (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor		
NHK Hall					
2024 01	A	Concert No. <b>2001</b>	<b>Bizet / Shchedrin</b> <i>Carmen Suite</i> , ballet <b>Ravel</b> <i>Ma mère l'Oye</i> , suite ( <i>Mother Goose</i> ) <b>Ravel</b> <i>La valse</i> , ballet	Ordinary	Youth
		<b>January</b>		S 9,100 A 7,600 B 5,900 C 4,800 D 3,800 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
		<b>13</b> (Sat) 6:00pm <b>14</b> (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor		
NHK Hall					
2024 01	B	Concert No. <b>2003</b>	<b>Mozart</b> <i>Sinfonia Concertante</i> for Violin and Viola E-flat Major K. 364 <b>Beethoven</b> <i>Symphony No. 3</i> E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> ( <i>Heroic Symphony</i> )	Ordinary	Youth
		<b>January</b>		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		<b>24</b> (Wed) 7:00pm <b>25</b> (Thu) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin* Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola *Changed from initially scheduled.		
Suntory Hall					
2024 01	C	Concert No. <b>2002</b>	<b>Liadov</b> <i>Kikimora</i> , légende Op. 63 <b>Prokofiev / Sokhiev</b> <i>Romeo and Juliet</i> , ballet suite	Ordinary	Youth
		<b>January</b>		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		<b>19</b> (Fri) 7:30pm <b>20</b> (Sat) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor		
NHK Hall					
2024 02	A	Concert No. <b>2004</b>	<b>Johann Strauss II</b> <i>Im Krapfenwald'l</i> , polka française Op. 336 ( <i>In Krapfen's Woods</i> ) <b>Shostakovich</b> <i>Suite</i> for Variety Orchestra No. 1 — <i>March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II</i> <b>Shostakovich</b> <i>Symphony No. 13</i> B-flat Minor Op. 113, <i>Babi Yar</i> * <sup>1,2</sup>	Ordinary	Youth
		<b>February</b>		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
		<b>3</b> (Sat) 6:00pm <b>4</b> (Sun) 2:00pm	Michiyoshi Inoue, conductor Alexey Tikhomirov, bass* <sup>1,2</sup> Orphei Drängar, male chorus* <sup>1</sup> * <sup>2</sup> Changed from initially scheduled.		
NHK Hall					
2024 02	B	Concert No. <b>2006</b>	<b>Ravel</b> <i>Rapsodie espagnole</i> ( <i>Spanish Rhapsody</i> ) <b>Prokofiev</b> <i>Violin Concerto No. 2</i> G Minor Op. 63 <b>Falla</b> <i>El sombrero de tres picos</i> , ballet (complete) ( <i>The Three-Cornered Hat</i> )*	Ordinary	Youth
		<b>February</b>		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		<b>14</b> (Wed) 7:00pm <b>15</b> (Thu) 7:00pm	Pablo Heras-Casado, conductor Augustin Hadelich, violin Tamayo Yoshida, soprano*		
Suntory Hall					
2024 02	C	Concert No. <b>2005</b>	<b>Wagner</b> <i>Siegfried Idyll</i> <b>R. Strauss</b> <i>Ein Heldenleben</i> , symphonic poem Op. 40 ( <i>A Hero's Life</i> )	Ordinary	Youth
		<b>February</b>		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		<b>9</b> (Fri) 7:30pm <b>10</b> (Sat) 2:00pm	Eiji Oue, conductor		
NHK Hall					

(consumption tax included)

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024  
04

**A** Concert No. **2007**  
**April**  
13 (Sat) 6:00pm  
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Schubert** Symphony No. 4 C Minor D. 417  
**Brahms** Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Marek Janowski, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**B** Concert No. **2009**  
**April**  
24 (Wed) 7:00pm  
25 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Schumann** *Genoveva*, opera Op. 81—Overture  
**Schumann** Cello Concerto A Minor Op. 129  
**Schumann** Symphony No. 2 C Major Op. 61

Christoph Eschenbach, conductor  
Kian Soltani, cello

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **2008**  
**April**  
19 (Fri) 7:30pm  
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Bruckner** Symphony No. 7 E Major

Christoph Eschenbach, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024  
05

**A** Concert No. **2010**  
**May**  
11 (Sat) 6:00pm  
12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Panfilii** *Abitare la battaglia* [Japan Premiere]  
**Respighi** *Fontane di Roma*, symphonic poem (*Fountains of Rome*)  
**Respighi** *Pini di Roma*, symphonic poem (*Pines of Rome*)  
**Respighi** *Feste Romane*, symphonic poem (*Roman Festivals*)

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

**B** Concert No. **2012**  
**May**  
22 (Wed) 7:00pm  
23 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Brahms** Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15  
**Nielsen** Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments*

Fabio Luisi, conductor  
Rudolf Buchbinder, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **2011**  
**May**  
17 (Fri) 7:30pm  
18 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Mendelssohn** *A Midsummer Night's Dream*  
—Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March  
**Mendelssohn** Symphony No. 5 D Minor Op. 107, *Reformation*

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024  
06

**A** Concert No. **2013**  
**June**  
8 (Sat) 6:00pm  
9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Scriabin** *Rêverie*, Op. 24  
**Scriabin** Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20  
**Scriabin** Symphony No. 2 C Minor Op. 29

Keitaro Harada, conductor  
Kyohei Sorita, piano

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**B** Concert No. **2015**  
**June**  
19 (Wed) 7:00pm  
20 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Webern** Passacaglia Op. 1  
**Schönberg** Violin Concerto Op. 36  
**J. S. Bach / Webern** Ricercata  
**Schubert** Symphony No. 5 B-flat Major D. 485

Masato Suzuki, conductor  
Isabelle Faust, violin

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **2014**  
**June**  
14 (Fri) 7:30pm  
15 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Ibert** *Escales (Ports of Call)*  
**Ravel** Piano Concerto for the Left Hand  
**Debussy** *Nocturnes\**

Nodoka Okisawa, conductor  
Denis Kozhukhin, piano  
The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus\*

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

## N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で  
放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも



アプリで便利に！

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域の一部は延長2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送配信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

## スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

### NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FM  
の放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでも  
お楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる！

## 聴き逃し

放送終了後1週間/  
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

## 伝えるチカラ

# NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの  
一般財団法人が合併して、NHK財団  
が発足しました。子法人の公益財団法人  
「NHK交響楽団」と共に、事業を進  
めていきます。

ステラ  
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

# 役員等・団友

## 役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野公一 三溝敬志
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 銭谷真美 團宏明 毛利衛
監事	浜村和則 江口貴之
評議員	稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊莖御堂 朋子 清野 智 田中宏暁 檀ふみ 坪井節子 前田昭雄 松居 侖 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修

## 事務局

演奏制作部	企画プロモーション部			経営管理部	技術主幹	
岩渕一真	高木かおり	宮崎則匡	田内誠人	野村 歩	姫野 恵	尾澤 勉
山田大祐	沖 あかね	黒川大亮	猪股正幸	浅田武志	杉山真知子	
石井 康	内山弥生	上原 静	吉賀亜希	山本能寛		芸術主幹
北見佳織	徳永匡哉	木村英代	三浦七菜子	吉田麻子		西川彰一
利光敬司	高橋 啓			目黒重治		

## 団友

田中 裕	チェロ	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正	事務局
鶴我裕子				百瀬和紀	
徳永二男	岩井雅音	青山聖樹	井川明彦		稲川 洋
中瀬裕道	木越 洋	北島 章	北村源三	ピアノ	入江哲之
名響コンサート マスター	永峰高志	齋藤鶴吉	浜 道晃	来馬 賢	金沢 孝
	根津昭義	三戸正秀	茂木大輔	関山幸弘	小林文行
堀 正文	堀 伝	銅銀久弥		津堅直弘	本荘玲子
	堀江 悟	丹羽経彦	クラリネット	板本浩規	理事長
ヴァイオリン	前澤 淨	平野秀清		福井 功	中馬 究
	宮里親弘	藤井 晃	磯部周平	佛坂咲千生	出口修平
板橋 健	武藤伸二	藤本英雄	加藤明久		田畑和宏
梅澤美保子	村上和邦	茂木新緑	横川晴児	トロンボーン	野島直樹
海野義雄	山口裕之			伊藤 清	日向英実
大澤 浄	蓬田清重	コントラバス	ファゴット	神谷 敏	木田幸紀
大林修子				栗田雅勝	森 茂雄
大松八路	ヴィオラ	井戸田善之	岡崎耕治	関根五郎	今井 環
金田幸男		志賀信雄	霧生吉秀	三輪純生	根本佳則
川上朋子	大久保淑人	田中雅彦			役員
川上久雄	小野富士	中 博昭	ホルン		加納民夫
窪田茂夫	梯 孝則	佐川裕昭		テューバ	唐木田信也
黒柳紀明	河野昌彦	新納益夫			斉藤 滋
公門俊之	菅沼準二				関川精二
齋藤真知理	店村眞積				鳴嶋郁夫
酒井敏彦	田淵雅子	フルート			原 武
清水謙二	中竹英昭	菅原 潤		打楽器	山崎大樹
鈴木弘一	三原征洋	細川順三			
武内智子	村山 弘	宮本明恭			
田淵 彰	渡部啓三				

フィルハーモニー2023年12月号 | 第95巻 第9号

2023年12月1日発行 ISSN 1344-5693

## 公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団

取材・編集: 株アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず



# ともに創る未来へ。-Challenge SEITOKU-

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限りない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越する挑戦で、新しい価値を創る力を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

## Field Linkage® (フィールド・リンケージ®)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムで、多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を育成します。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

## Business Field Linkage® (ビジネス・フィールド・リンケージ®)

高度な専門的学びを実社会（ビジネス社会）と結び付け主体的に活躍していくための実践的能力を身につけるプログラム。  
新しい時代に活躍できるリーダーを育成します。

## 2021・2022・2023 実就職率 全国女子大学ランキング



(97.5% 2023年3月卒業生)  
※卒業生500人以上の女子大実就職率  
2023年大学通信調べ



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

# 聖徳大学

# 聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)  
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学  
音楽学部 (女子)

聖徳大学大学院  
音楽文化研究科  
[博士前期・後期課程] (共学)

## ～聖徳大学グループ～

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校  
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園  
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園  
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

# 骨董・古美術月刊誌「目の眼」

いいものに会ふと

自分の命を拾った思ひがある

川端康成

12月号 | 発売中

花あわせ

古器物にいける

2024年1月号 | 12/15 発売

眼の革新

時代を変えたコレクターたち

毎月15日発売 | 1,650円税込



定期購読 & メールマガジン登録受付中  
[menomeonline.com](http://menomeonline.com)



東京  
春祭

20<sup>th</sup>  
Spring Festival in Tokyo

指揮: マレク・ヤノフスキ  
Conductor: Marek Janowski

トリスタン: スチュアート・スケルトン  
Tristan: Stuart Skelton

マルケ王: フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ  
König Marke: Franz Josef Selig

イゾルデ: ビルギッテ・クリステンセン  
Isolde: Birgitte Christensen

クルヴェナール: マルクス・アイヒェ  
Kurwenal: Markus Eiche

メロート: 甲斐栄次郎  
Melot: Eijiro Kai

ブランゲネ: ルクサンドラ・ドノーセ  
Brangäne: Ruxandra Donose

牧童: 大槻孝志  
Ein Hirt: Takashi Otsuki

舵取り: 高橋洋介  
Ein Steuermann: Yosuke Takahashi

若い水夫の声: 金山京介  
Stimme eines jungen Seemanns: Kyosuke Kanayama

管弦楽: NHK交響楽団  
Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ  
Chorus: Tokyo Opera Singers

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン  
Musical Preparation: Thomas Lausmann



Marek Janowski © Felix Broede

(演奏会形式 / 字幕付)

全3幕 上演時間: 約5時間 (休憩2回含む)

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

# トリスタンとイゾルデ

2024

3.27 [水] 15:00 3.30 [土] 15:00

March 27 [Wed.] 15:00 / March 30 [Sat.] 15:00

東京文化会館 大ホール

Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

S ¥26,500 A ¥22,000 B ¥18,000  
C ¥14,500 D ¥11,500 E ¥8,500 U-25 ¥3,000

※U-25は2月15日[木]12:00発売 (音楽祭公式サイト限定取扱)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: 日本ワーグナー協会 助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス  
[www.tokyo-harusai.com](http://www.tokyo-harusai.com)

(座席選択可・登録無料)

チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>  
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650  
N響ガイド 0570-02-9502

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

M.ヤノフスキ指揮 ワグナー「ニーベルングの指環」ガラコンサート  
(4.7日[日]15:00 東京文化会館)も好評発売中

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00)







特別ゲスト：高橋英樹



ゲスト：坂田晃一



ナビゲーター：山田美也子

指揮：キンポー・インイ  
ヴァイオリン：三浦文彰\*  
管弦楽：NHK交響楽団

本家本元が贈る大河ドラマ・テーマ曲集

# N響音 大河ドラマ

& 名曲コンサート

Taiga Drama & Masterpiece Concert

2024年3月9日[土] 4:00pm  
東京芸術劇場 コンサートホール

(池袋駅西口 徒歩2分) 2時間程度の公演です

発売開始日 2023年11月28日[火] 10:00am (一般発売)  
2023年11月22日[水] 10:00am (定期会員先行発売)

料金 全て税込 / 全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥9,000	¥8,000	¥7,000	¥6,000
ユースチケット(25歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,500	¥3,000

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>  
N響ガイド 0570-02-9502  
東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 [www.geigeki.jp/t/](http://www.geigeki.jp/t/)  
チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](http://pia.jp/t/nhkso)  
e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](http://eplus.jp/nhkso)  
ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](http://l-tike.com/nhkso)

主催：NHK交響楽団 後援：豊島区

- 曲目  
[第1部 大河ドラマ編]  
黄金の日日 (1978/池辺晋一郎)  
どうする家康 (2023/稲本響)  
春の坂道 (1971/三善晃)  
国盗り物語 (1973/林光)  
花神 (1977/林光)  
山河燃ゆ (1984/林光)  
おんな太閤記 (1981/坂田晃一)  
いのち (1986/坂田晃一)  
真田丸 (2016/服部隆之)\*  
光る君へ (2024/冬野ユミ)

- [第2部「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]  
「四季」—「春」(ヴィヴァルディ)\*  
交響詩「モルダウ」(スメタナ)  
ワルツ「美しく青きドナウ」  
(J.シュトラウス II世)



©白土吉枝

©Yuji Hori

\*ユースチケット(25歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。  
初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。  
詳細はN響ホームページをご覧ください。  
\*定期会員割引：先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。  
\*車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。  
\*N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。  
\*未就学児のご入場はお断りしています。

\*やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。  
公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。  
\*公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm (定休日：土・日・祝日)

Follow us on



[nhkso.or.jp](http://nhkso.or.jp)



# N響第九

Special Concert

2023年12月27日(水) 7:00pm

サントリーホール

Wednesday, December 27, 2023 Suntory Hall

バッハ／18のライプチヒ・コラール ―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654

Bach 18 Chorales, *Leipziger Chorale* — *Schmücke dich, o liebe Seele*, BWV654

オルガン: 勝山 雅世

Masayo Katsuyama, organ

バーバー／弦楽のためのアダージョ

Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

指揮: 下野 竜也

Tatsuya Shimono, conductor

合唱: 新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus, chorus

一般: S ¥17,500 A ¥14,500 B ¥11,500 C ¥8,000

ユースチケット(25歳以下):

S ¥8,750 A ¥7,250 B ¥5,750 C ¥4,000

※全て税込価格

発売開始: 10月9日(月・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 10月3日(火) 10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・  
営業時間はN響ホームページでご確認ください)

前売所

- WEBチケットN響 ..... <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド ..... 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター ..... 0570-55-0017  
[suntory.jp/HALL/](https://suntory.jp/HALL/)
- チケットぴあ ..... [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)
- e+(イープラス) ..... [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)
- ローソンチケット ..... [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)



ソプラノ: 中村 恵理  
Eri Nakamura,  
soprano



メゾソプラノ 脇岡 彩  
Aya Wakizono,  
mezzo soprano



テノール: 村上 公太  
Kota Murakami,  
tenor



バス: 河野 鉄平  
Teppei Kono,  
bass

・コースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。・定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。・早い着席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。・未就学児のご入場はお断りしています。・公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

進化するめくもり。



# BEETHOVEN

NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

## N響第9

NHK交響楽団  
ベートーヴェン「第9」演奏会  
Beethoven 9th Symphony Concerts

バーバー／弦楽のためのアダージョ  
Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン／  
交響曲 第9番  
二短調 作品125「合唱つき」  
Beethoven Symphony No.9 D minor op.125, Choral

2023年  
12/22 金 7:00 pm | 12/23 土 2:00 pm  
12/24 日 2:00 pm | 12/26 火 7:00 pm\*

NHKホール

\*12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

チケット発売開始:  
10月9日(月・祝)10:00am

N響定期会員先行発売日(26日公演をのぞく):

10月3日(火)10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、26日公演をのぞく]

料金(税込):

一般 S¥15,000 A¥12,000 B¥9,000 C¥6,500 D¥4,500

ユースチケット(25歳以下) S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,250 D¥2,250



指揮  
下野 竜也



ソプラノ  
中村 恵理



メゾ・ソプラノ  
脇園 彩



テノール  
村上 公太



バス  
河野 鉄平

合唱: 新国立劇場合唱団

前売所:

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>  
N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso/](https://pia.jp/t/nhkso/)  
e+ (イープラス) [eplus.jp/nhkso/](https://eplus.jp/nhkso/)  
ローンチケット [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso/)

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(26日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●未就学児のご入場はお断りしています。●公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ  
N響ガイド:0570-02-9502  
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団:03-3476-5955  
(26日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団  
主催(26日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社  
はごろもフーズ株式会社  
株式会社明電舎

# SYMPHONY No.9





NHK Symphony Orchestra, Tokyo

# The 2000th

Subscription Concerts

## N響 第2000回 定期公演

2023年

(2023年12月Aプログラム)

12月16日 | 土 | 6:00 pm

12月17日 | 日 | 2:00 pm NHKホール

Sat., 16, 6:00pm / Sun., 17 2:00pm, Dec. 2023 NHK Hall



ソプラノ soprano  
ジャクリン・ワグナー  
Jacquelyn Wagner



指揮 | ファビオ・ルイーダ  
(NHK交響楽団 首席指揮者)  
**Fabio Luisi, conductor**  
(Chief Conductor of NHK Symphony Orchestra)

Yoshiko Miyazaki/OPD

ソプラノ soprano  
ヴァレントリーナ・ファルカシュ  
Valentina Farcas



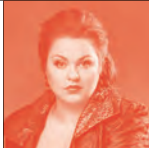
合唱 | 新国立劇場合唱団  
児童合唱 | NHK東京児童合唱団  
New National Theatre Chorus, chorus  
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

ソプラノ soprano  
三宅理恵  
Rie Miyake



マラー/交響曲 第8番  
変ホ長調「二千人の交響曲」(ラン 投票選出曲)  
Mahler Symphony No. 8, E-flat Major,  
Symphonic der Tausend (Symphony of Thousand)

# Mahler 二千人の交響曲



アルト alto  
オレシヤ・ペトロヴァ  
Olesya Petrova



テノール tenor  
ミハエル・シャード  
Michael Schade



アルト alto  
カトリオーナ・モリソン  
Catriona Morison



バリトン baritone  
ルーカ・ストリフ  
Luke Sutliff



主催  
特別支援  
NHK/NHK交響楽団  
岩谷産業株式会社  
三菱地所株式会社  
株式会社みずほ銀行  
公益財団法人渋谷教育基金

バス bass  
ダーヴィッド・シュテフェンス  
David Steffens

お問い合わせ | N響ガイド 0570-02-9502 | 営業時間  
10:00am~5:00pm (定休日: 土・日・祝日) \*主催公演開  
催日は曜日に開わず10:00am~開演時刻まで営業いたし  
ます。\*発売日初日の土・日・祝日10:00am~3:00pmの営業  
となります。\* 電話受付のみの営業となります。

# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1\*

\*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

## Iwatani

岩谷産業株式会社